

大学番号：80

[令和元年度設置]

計画の区分： 研究科の設置

事前伺い

鹿児島大学大学院 農林水産学研究科 農林資源科学専攻 (M)
食品創成科学専攻 (M)
環境フィールド科学専攻 (M)
水産資源科学専攻 (M)

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人鹿児島大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 水産学部総務係

職名・氏名 総務係長 ウチノ内野 ジョウジ譲二

電話番号 099-286-4016

（夜間） 099-286-4016

F A X 099-286-4015

e-mail fsomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

目次

農林水産学研究科

	ページ
＜農林資源科学専攻（M）＞	
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33
＜食品創成科学専攻（M）＞	
1. 調査対象大学等の概要等	35
2. 授業科目の概要	39
3. 施設・設備の整備状況、経費	45
4. 既設大学等の状況	47
5. 教員組織の状況	53
6. 附帯事項等に対する履行状況等	63
7. その他全般的事項	65
＜環境フィールド科学専攻（M）＞	
1. 調査対象大学等の概要等	67
2. 授業科目の概要	71
3. 施設・設備の整備状況、経費	75
4. 既設大学等の状況	77
5. 教員組織の状況	83
6. 附帯事項等に対する履行状況等	91
7. その他全般的事項	93
＜水産資源科学専攻（M）＞	
1. 調査対象大学等の概要等	95
2. 授業科目の概要	99
3. 施設・設備の整備状況、経費	105
4. 既設大学等の状況	107
5. 教員組織の状況	113
6. 附帯事項等に対する履行状況等	121
7. その他全般的事項	123

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人鹿児島大学

(2) 大学名

鹿児島大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

(郡元キャンパス)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	(サノ アキラ) 佐野 輝 (平成31年4月1日)		
研究科長	(ハシモト フミオ) 橋本 文雄 (平成31年4月1日)		
専攻長	(ユタカ トモユキ) 豊 智行 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください)。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農林水産学研究科 農林資源科学専攻 修士(農学)	農学関係	2年	39人	年次人	78人	農学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和元年度				平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期							
A 入学定員	39 (-) [-]	-					1.00倍	一倍	
志願者数	48 (-) [4]	-							
受験者数	46 (-) [4]	-							
合格者数	42 (-) [4]	-							
B 入学者数	39 (-) [4]	-							
入学定員超過率 B/A	1.00								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみに記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度										備 考
	春季入学	その他の学期									
1年次	39 [4] (-)	- [-] (-)									
2年次	/										
計	39 [4] (-)										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	39人	0人	令和元年度	0人	0人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{39} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<農林水産学研究科 農林資源科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	(必修科目共通)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			6	1				
		環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			5	1				
		小計(2科目)	-	4	0	0	11	2	0	0	0	
	実験実習	沿岸域乗船実習	1・2通		1		7	7		4		
		小計(1科目)	-	0	1	0	7	7	0	4	0	
	キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2					
		インターンシップB	1・2通		2		2					
		ビジネスツール実践演習	1前		2							2
		実用英語S	1前		2							1
		水産業の課題と未来	1・2通		2		3	4		1		
		Tropical Fisheries	1前		2			1				
		地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1		
		小計(7科目)	-	0	19	0	6	7	0	1	0	3
コース基礎科目		植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1		
		畜産科学基礎特論	1前		2		5	5		1		
	森林科学基礎特論	1前		2		5	5		1			
	食料農業経済学基礎特論	1前		2		1						
	食品科学基礎特論	1前		2		2	5		2			
	先端生命科学基礎特論	1前		2		3	6	2				
	焼酎発酵・微生物科学基礎特論	1前		2		4	3		2			
	生物環境科学基礎特論	1前		2		1	2		1			
	環境システム学基礎特論	1前		2		2	3		4			
	生物資源科学基礎特論	1前		2		2	5					
	増養殖学基礎特論	1前		2		2	1		2			
	環境保全学基礎特論	1前		2		2	1		1			
	水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	1					
小計(13科目)	-	0	26	0	37	44	3	15				
専攻共通科目	農林資源科学倫理特論	1前		1		20	21	1	3			
	農林資源科学特別研究Ⅰ	1前		3		20	21	1	3			
	農林資源科学特別研究Ⅱ	1後		4		20	21	1	3			
	農林資源科学特別研究Ⅲ	2通		2		20	21	1	3			
	小計(4科目)	-	10	0	0	20	21	1	3	0		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通科目	(必修科目共通)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			7				
		環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			6				
		小計(2科目)	-	4	0	0	13	0	0	0	0
	実験実習	沿岸域乗船実習	1・2通		1		8	7		4	
		小計(1科目)	-	0	1	0	8	7	0	4	0
	キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2				
		インターンシップB	1・2通		2		2				
		ビジネスツール実践演習	1後		2						2
		実用英語S	1後		2						1
		水産業の課題と未来	1後		2		5	2		1	
		Tropical Fisheries	1前		2			1			
		地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1	
		国際バイテク・リーダー育成	1・2通		2		3	5	1	1	
食品安全特論		1・2通			2		2				
食品産業監査特論		1・2通			1		2			1	
マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論		1・2通			1		1			3	
食品加工論		1・2通			1	2	3				
食品衛生論		1・2通			1			1			
食品環境測定論		1・2通			1			2			
食品産業国際規格論		1・2通			1		1				
食品産業実習		1・2通			1			1			
商品開発特論		隔年・前			2		1				
小計(17科目)	-	0	21	11	15	11	2	3	0	7	
コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1		
	畜産科学基礎特論	1前		2		4	5		1		
	森林科学基礎特論	1前		2		5	5		2		
	食料農業経済学基礎特論	1前		2		1					
	食品科学基礎特論	1前		2		2	6		1		
	先端生命科学基礎特論	1前		2		1	5	2			
	微生物科学基礎特論	1前		2		3	3		2		
	生物環境科学基礎特論	1前		2		1	2		1		
	環境システム学基礎特論	1前		2		2	3		4		
	生物資源科学基礎特論	1前		2		3	5				
	増養殖学基礎特論	1前		2		3	1		1		
	環境保全学基礎特論	1前		2		3			2		
	水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	2				
小計(13科目)	-	0	26	0	35	44	3	15			
専攻共通科目	農林資源科学倫理特論	1前		1		20	21	1	4		
	農林資源科学特別研究Ⅰ	1前		3		20	21	1	4		
	農林資源科学特別研究Ⅱ	1後		4		20	21	1	4		
	農林資源科学特別研究Ⅲ	2前		2		20	21	1	4		
	小計(4科目)	-	10	0	0	20	21	1	4	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
植物生産科学コース	コース独自科目	植物生産科学特別講義	1後	2			5	8	1	1		
		植物生産科学特別演習	1後	2			8	9	1	1		
		小計(2科目)	-	4	0	0	8	9	1	1	0	
	コース実験実習科目	植物生産科学実習1	1通		2		8	9	1	1		
		植物生産科学実習2	1通		2		8	9	1	1		
		小計(2科目)	-	0	4	0	8	9	1	1	0	
		論文指導	-				8	9	1	1		
		小計	-				8	9	1	1	0	
	畜産学コース	コース独自科目	畜産科学特別実験	1・2通	2			5	5		1	
			畜産科学特別演習	1・2通	2			5	5		1	
小計(2科目)			-	4	0	0	5	5	0	1	0	
コース実験実習科目		畜産科学特別実習	1・2通		1			1				
		小計(1科目)		0	1	0	0	1	0	0	0	
		論文指導	-				5	5		1		
		小計	-				5	5	0	1	0	
森林科学コース		コース独自科目	森林科学特別実験	1後	2			5	5		1	
			森林科学特別演習	1後	2			5	5		1	
			森林資源科学特別講義	1通		4		4	1		1	
	森林環境科学特別講義		1通		4		1	4				
	森林科学実践講義		1後		2		2	1		1		
	海外森林・林業事情		1前		2		1	1				
		小計(6科目)	-	4	12	0	5	5	0	1	0	
	コース実験実習科目	演習林特別実習	1通		1		1	1				
		小計(1科目)		0	1	0	1	1	0	0	0	
		論文指導	-				5	5		1		
	小計	-				5	5	0	1	0		
食料農業経済コース	コース独自科目	アグリフードビジネス特別演習	1・2通	4			2	2				
		小計(1科目)		4	0	0	2	2	0	0	0	
		論文指導	-				2	2				
		小計	-				2	2	0	0	0	
留学生プログラム	留学生向け科目	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2				1				
		Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1					
		Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後		2		1					
		Advanced Plant Production Science	1前		2		7	8				
		農林水産科学リーディングコースⅠ	1通		2		20	21	1	3		
		農林水産科学リーディングコースⅡ	2通		2		20	21	1	3		
			小計(6科目)	-	4	8	0	22	22	1	3	0
	計(48科目)		34	72	0	40	48	3	15	0	3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
植物生産科学コース	コース独自科目	植物生産科学特別講義	1後	2			5	8	1	1		
		植物生産科学特別演習	1通	2			8	9	1	1		
		小計(2科目)	-	4	0	0	8	9	1	1	0	
	コース実験実習科目	植物生産科学実習1	1通		2		8	9	1	1		
		植物生産科学実習2	1通		2		8	9	1	1		
		小計(2科目)	-	0	4	0	8	9	1	1	0	
		論文指導	-				8	9	1	1		
		小計	-				8	9	1	1	0	
	畜産学コース	コース独自科目	畜産科学特別実験	1・2通	2			5	5		1	
			畜産科学特別演習	1・2通	2			5	5		1	
小計(2科目)			-	4	0	0	5	5	0	1	0	
コース実験実習科目		畜産科学特別実習	1後		1			1				
		小計(1科目)		0	1	0	0	1	0	0	0	
		論文指導	-				5	5		1		
		小計	-				5	5	0	1	0	
森林科学コース		コース独自科目	森林科学特別実験	1後	2			5	5		1	
			森林科学特別演習	1後	2			5	5		1	
			森林資源科学特別講義	1通		4		4	1		1	
	森林環境科学特別講義		1通		4		1	4			1	
	森林科学実践講義		1通		2		5	5			2	
	海外森林・林業事情		1前		2		2	1			1	
		小計(6科目)	-	4	12	0	5	5	0	2	0	
	コース実験実習科目	演習林特別実習	1通		1		1	1				
		小計(1科目)		0	1	0	1	1	0	0	0	
		論文指導	-				5	5			2	
	小計	-				5	5	0	2	0		
食料農業経済コース	コース独自科目	アグリフードビジネス特別演習	1・2通	4			2	2				
		小計(1科目)		4	0	0	2	2	0	0	0	
		論文指導	-				2	2				
		小計	-				2	2	0	0	0	
留学生プログラム	留学生向け科目	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2				1				
		Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1					
		Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後		2		1					
		Advanced Plant Production Science	1前		2		7	8				
		農林水産科学リーディングコースⅠ	1通		2		20	21	1	3		
		農林水産科学リーディングコースⅡ	2通		2		20	21	1	3		
			小計(7科目)	-	4	10	0	22	22	1	3	0
	計(59科目)		34	76	11	40	48	3	15	0	7	

修了要件及び履修方法

<p>植物生産科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の中から自コース開講科目2単位を必修とし、他コースが開講するコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・研究科共通(実験実習科目)とコース実験実習科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)・他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から4単位を選択して履修。 <p>畜産科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の中から自コース開講科目2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から6単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コースの開講分含む)、他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から4単位を選択して履修。 <p>森林科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とする。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目(森林科学特別実験、森林科学特別演習)の4単位は必修として履修。 ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、自コース開講科目、他コースの開講科目含む)、他コース科目、コース独自科目(必修分除く)、地域創生・食産業マネジメントプログラム、他研究科の開講科目の中から10単位を選択して履修。 <p>食料農業経済コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とする。 ・コース独自科目の「アグリフードビジネス特別演習」(4単位)と研究科共通(キャリア実践科目)の地域創生・食産業マネジメントプログラム(8単位)は必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))10単位を必修として履修。 ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コースの開講分含む)、他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から2単位を選択して履修。 <p>留学生プログラム</p> <p>留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。</p>
--

修了要件及び履修方法

<p>植物生産科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の中から自コース開講科目2単位を必修とし、他コースが開講するコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・研究科共通(実験実習科目)とコース実験実習科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)・他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から4単位を選択して履修。 <p>畜産科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の中から自コース開講科目2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から6単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コースの開講分含む)、他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から4単位を選択して履修。 <p>森林科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とする。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目(森林科学特別実験、森林科学特別演習)の4単位は必修として履修。 ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、自コース開講科目、他コースの開講科目含む)、他コース科目、コース独自科目(必修分除く)、地域創生・食産業マネジメントプログラム、他研究科の開講科目の中から10単位を選択して履修。 <p>食料農業経済コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とする。 ・コース独自科目の「アグリフードビジネス特別演習」(4単位)と研究科共通(キャリア実践科目)の地域創生・食産業マネジメントプログラム(8単位)は必修として履修。 ・専攻共通科目(農林資源科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))10単位を必修として履修。 ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コースの開講分含む)、他専攻・他コース、他研究科の開講科目の中から2単位を選択して履修。 <p>留学生プログラム</p> <p>留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。</p>
--

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・昇任人事の理由により、「食料生産における技術イノベーションと地域創生」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授7」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授6」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「沿岸域乗船実習」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「ビジネスツール実践演習」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「実用英語S」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「水産業の課題と未来」の専任教員の配置を「准教授4」から「教授5」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「水産業の課題と未来」の配当年次を「1・2通」から「1後」に変更。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「国際バイオテック・リーダー育成」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「食品安全特論」「食品産業監査特論」「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」「食品加工論」「食品衛生論」「食品環境測定論」「食品産業国際規格論」「食品産業実習」の科目区分を食品創成科学専攻の食品コース独自科目から研究科共通科目のキャリア実践科目に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/16以降)の理由により、「食品安全特論」の専任教員の配置を「准教授1」「兼任・兼担2」から「准教授2」「兼任・兼担0」に変更。
- ・専任教員追加の理由により、「食品産業監査特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令の理由により、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担5」から「准教授1」「兼任・兼担3」に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/15以降)の理由により、「食品産業国際規格論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担3」から「准教授1」「兼任・兼担0」に変更。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「商品開発特論」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
- ・担当者変更の理由により、「畜産科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
- ・新規採用の理由により、「森林科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「食品科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「先端生命科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授3」「准教授6」から「教授1」「准教授5」に変更。
- ・焼酎以外の微生物に関することも教授するため、より適切な名称として「焼酎発酵・微生物科学基礎特論」から「微生物科学基礎特論」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「微生物科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
- ・昇任人事及び担当者追加の理由により、「環境保全学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「教授3」「助教2」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「水産流通・政策学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・新規採用の理由により、「農林資源科学倫理特論」の専任教員の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
- ・新規採用の理由により、「農林資源科学特別研究Ⅰ」の専任教員の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
- ・新規採用の理由により、「農林資源科学特別研究Ⅱ」の専任教員の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
- ・新規採用の理由により、「農林資源科学特別研究Ⅲ」の専任教員の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
- ・教育効果の観点により、「農林資源科学特別研究Ⅲ」の配当年次を「2通」から「2前」に変更。
- ・教育効果の観点により、「植物生産科学特別演習」の配当年次を「1後」から「1通」へ変更。
- ・集中開講へ変更(牧場の供試牛の確保)の理由により、「畜産科学特別実習」の配当年次を「1・2通」から「1後」へ変更。
- ・新規採用により、「森林環境科学特別講義」の専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・授業内容の充実及び新規採用のため、「森林科学実践講義」の専任教員の配置を「教授2」「准教授1」「助教1」から「教授5」「准教授5」「助教2」に、配当年次を「1後」を「1通」に変更。
- ・海外研修のバックアップに万全を期すため、「海外森林・林業事情」の専任教員の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授1」「助教1」に変更。
- ・新規採用の理由により、「森林科学コース論文指導」の専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅠ」の配当年次を「1通」から「1前」に変更。
- ・教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅡ」の配当年次を「2通」から「1後」に変更。
- ・開講の必要性の認識及びグローバルセンターの協力が得られることになり、「留学生日本語」を追加。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
15 科目	33 科目	0 科目	48 科目	15 科目 [0]	35 科目 [2]	9 科目 [9]	59 科目 [11]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{48} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	525,967 510,722 m ²	0 m ²	0 m ²	525,967 510,722 m ²			
	運動場用地	106,929 m ²	0 m ²	0 m ²	106,929 m ²			
	小 計	632,896 617,651 m ²	0 m ²	0 m ²	632,896 617,651 m ²			
	そ の 他	35,960,681 35,976,028 m ²	0 m ²	0 m ²	35,960,681 35,976,028 m ²			
	合 計	36,593,577 36,593,679 m ²	0 m ²	0 m ²	36,593,577 36,593,679 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
		208,888 m ² (208,888 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	208,888 m ² (208,888 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	145 室	287 室	1,662 室	29 室 (補助職員 0 人)	5 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体		
	農林水産学研究科 農林資源科学専攻			65 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械・器 具 点	標 本 点	大学全体 教育研究の充実及び購入計画の見直し等による変更(元)
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	共同獣医学 研究科 獣医学専攻	1,288,230 (374,399)	36,422 (11,782)	6,242 (5,926)	8,439	1,725	1,354,970	
		1,267,106 (367,041)	36,010 (11,705)	5,509 (5,506)	8,563			
		1,254,413 (364,029)	42,674 (17,201)	6,927 (5,586)	8,432			
計	1,288,230 (374,399)	36,422 (11,782)	6,242 (5,926)	8,439	(1,725)	(1,354,970)		
	1,267,106 (367,041)	36,010 (11,705)	5,509 (5,506)	8,563				
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		区分及び集計方法の見直し等による変更(元)		
	15,479 15,472 m ²		1,142 1,203 席	1,205,000 1,227,500 1,227,583 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	4,658 m ²		陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、武道場、室内プール、艇庫、弓道場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鹿児島大学									備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
法文学部										
法経社会学科	4	245	-	735	学士 (法学・経済学・学術)	1.03	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
人文学科	4	165	-	495	学士 (文学)	1.02	-	平成29年度	同上	
法政策学科	4	-	-	-	学士 (法学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
経済情報学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
人文学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	-	昭和54年度	同上	平成29年度学生募集停止
			3年次 10	20						編入学定員は学部全体の定員で外数。改組前の編入学定員は、平成31年度より学生募集停止。
教育学部										
学校教育教員養成課程	4	200	-	825	学士 (教育学)	1.02	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(25人)
特別支援教育教員養成課程	4	15	-	60	学士 (教育学)	1.01	-	昭和49年度	同上	
生涯教育総合課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
理学部										
数情報科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目21番35号	
物理科学科	4	45	-	180	学士 (理学)	1.03	-	平成9年度	同上	
生命化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	-	平成9年度	同上	
地球環境科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	同上	
医学部										
医学科	6	107	2年次 10	692	学士 (医学)	1.00	平成30年度	昭和30年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	(編入学定員は内数)
保健学科										
看護学専攻	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	-	平成11年度	同上	(編入学定員は内数)
理学療法専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上
作業療法専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上

歯学部						1.00				
歯学科	6	53	-	318	学士 (歯学)	1.00		昭和52年度	鹿児島市桜ヶ丘 八丁目35番1号	
工学部						1.04				
機械工学科	4	94	-	376	学士 (工学)	1.02	-	昭和30年度	鹿児島市郡元一 丁目21番40号	
電気電子工学科	4	78	-	312	学士 (工学)	1.05	-	平成4年度	同上	
建築学科	4	55	-	220	学士 (工学)	1.05	-	昭和30年度	同上	
環境化学プロセス工学科	4	35	-	140	学士 (工学)	1.03	-	平成21年度	同上	
海洋土木工学科	4	48	-	192	学士 (工学)	1.03	-	平成4年度	同上	
情報生体システム工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.05	-	平成21年度	同上	
化学生命工学科	4	50	-	200	学士 (工学)	1.04	-	平成21年度	同上	
			3年次 20	40						編入学定員は学部全 体の定員で外数。
農学部						1.03				
農業生産科学科	4	75	-	300	学士 (農学)	1.08	-	平成28年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号	
食料生命科学科	4	70	-	280	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上	
農林環境科学科	4	60	-	240	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上	
生物生産学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
生物資源化学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
生物環境学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
水産学部						1.04				
水産学科	4	140	-	560	学士 (水産学)	1.04	-	昭和50年度	鹿児島市下荒田 四丁目50番20号	平成27年度入学 定員増(10人)
水産教員養成課程	4	-	-	-	学士 (水産学)	-	-	昭和29年度	同上	平成27年度学生 募集停止
共同獣医学部						1.05				
獣医学科	6	30	-	180	学士 (獣医学)	1.05	-	平成24年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号	
大学全体	-	1905	60	7765	-	1.02	-	-	-	

大学の名称	鹿児島大学大学院								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
<<AC対象学部等>> [修士(博士前期)] 農林水産学研究科						0.95				
農林資源科学専攻	2	39	-	39	修士 (農学)	1.00	-	令和元年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号・ 鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
食品創成科学専攻	2	26	-	26	修士 (農学・水産学)	1.11	-	令和元年度	同上	
環境フィールド科学専攻	2	16	-	16	修士 (農学・水産学)	0.81	-	令和元年度	同上	
水産資源科学専攻	2	20	-	20	修士 (水産学)	0.75	-	令和元年度	同上	
人文社会科学研究科						0.83				
法学専攻	2	5	-	10	修士 (法学)	1.50	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
経済社会システム専攻	2	10	-	20	修士 (経済学・社会学)	0.65	-	平成10年度	同上	
人間環境文化論専攻	2	5	-	10	修士 (文学)	1.00	-	平成10年度	同上	
国際総合文化論専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.56	-	平成10年度	同上	
教育学研究科						0.88				
教育実践総合専攻	2	22	-	44	修士 (教育学)	0.88	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(16人)
医歯学総合研究科						1.35				
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	1.35	-	平成16年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
保健学研究科						1.08				
保健学専攻	2	22	-	44	修士 (保健学・看護学)	1.08	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科						1.01				
機械工学専攻	2	50	-	100	修士 (理学・工学・学術)	0.96	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
電気電子工学専攻	2	45	-	90	修士 (理学・工学・学術)	1.19	-	平成21年度	同上	
建築学専攻	2	25	-	50	修士 (理学・工学・学術)	1.08	-	平成21年度	同上	
化学生命・化学工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.06	-	平成21年度	同上	

海洋土木工学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	0.61	-	平成21年度	同上	
情報生体システム工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.02	-	平成21年度	同上	
数理情報科学専攻	2	14	-	28	修士 (理学・工学・学術)	0.78	-	平成21年度	同上	
物理・宇宙専攻	2	15	-	30	修士 (理学・工学・学術)	1.09	-	平成21年度	同上	
生命化学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	1.30	-	平成21年度	同上	
地球環境科学専攻	2	17	-	34	修士 (理学・工学・学術)	0.43	-	平成21年度	同上	
農学研究科										
生物生産学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号	令和元年度学生募集停止
生物資源化学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
生物環境学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
水産学研究科										
水産学専攻	2	-	-	-	修士 (水産学)	-	-	昭和54年度	鹿児島市下荒田四丁目50番20号	令和元年度学生募集停止
〔博士後期〕										
人文社会科学研究科										
地域政策科学専攻	3	6	-	18	博士 (学術)	0.83	-	平成15年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
医歯学総合研究科										
健康科学専攻	4	19	-	76	博士 (医学・歯学・学術)	0.87	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
先進治療科学専攻	4	31	-	124	博士 (医学・歯学・学術)	1.32	-	平成15年度	同上	
保健学研究科										
保健学専攻	3	6	-	18	博士 (保健学)	1.00	-	平成17年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科										
総合理工学専攻	3	24	-	72	博士 (理学・工学・学術)	0.49	-	平成28年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
物質生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
システム情報科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
生命環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
共同獣医学研究科										
						1.49				

獣医学専攻	4	6	-	12	博士 (獣医学)	1.49	-	平成30年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
連合農学研究科						1.25			
生物生産科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学・水産学・学術)	1.42	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
応用生命科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.24	-	平成21年度	同上
農水圏資源環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.12	-	平成21年度	同上
〔専門職学位課程〕									
教育学研究科						0.90			
学校教育実践高度化専攻	2	16	-	32	教職修士 (専門職)	0.90	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号
臨床心理学研究科						1.00			
臨床心理学専攻	2	15	-	30	臨床心理 修士 (専門職)	1.00	-	平成19年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号
大学院全体	-	615	-	1288	-	0.99	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<農林水産学研究科 農林資源科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
専	教授	志水 勝好 (52) <平成31年4月> 博士(農学) 担当授業科目名 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	坂上 酒一(55) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	遠城 道雄 (60) <平成31年4月> 博士(農学) 環境変動に対応した防災と持続的の一次産業 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	田浦 悟 (59) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	山本 雅史 (55) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	橋本 文雄 (59) <平成31年4月> 博士(農学) 食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
専	教授	志水 勝好 (52) <平成31年4月> 博士(農学) 担当授業科目名 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	坂上 酒一 (55) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	遠城 道雄 (60) <平成31年4月> 博士(農学) 環境変動に対応した防災と持続的の一次産業 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	田浦 悟 (59) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	山本 雅史 (55) <平成31年4月> 博士(農学) 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授(研究科長)	橋本 文雄 (59) <平成31年4月> 博士(農学) 食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	津田 勝男 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		境 雅夫 (57) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 インターンシップB 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	大塚 彰 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		岡本 新 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	後藤 貴文 (54) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 食品加工論 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		中西 良孝 (62) <平成31年4月> 農学博士	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	三好 和暁 (50) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	津田 勝男 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		境 雅夫 (57) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習1 植物生産科学実習2 インターンシップA インターンシップB 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 Advanced Plant Production Science ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	大塚 彰 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		岡本 新 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	後藤 貴文 (54) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 食品加工論 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		中西 良孝 (62) <平成31年4月> 農学博士	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	三好 和暁 (50) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	牧田 邦宏 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		岡 勝 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 演習特別実習 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	寺岡 行雄 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 海外森林・林業事情 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		西野 吉彦 (54) <平成31年4月> 農学博士	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	地頭蘭 隆 (60) <平成31年4月> 博士(農学)	環境変動に対応した防災と持続的一次産業 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		田代 正一 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 食料農業経済学基礎特論 アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	豊 智行 (46) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと 地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	牧田 邦宏 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		岡 勝 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 演習特別実習 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	寺岡 行雄 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 海外森林・林業事情 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		西野 吉彦 (54) <平成31年4月> 農学博士	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	地頭蘭 隆 (61) <平成31年4月> 博士(農学)	環境変動に対応した防災と持続的一次産業 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		田代 正一 (62) <平成31年4月> 博士(農学)	農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 食料農業経済学基礎特論 アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授 (専攻 表)	豊 智行 (46) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと 地域創生 ※ 農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	加治佐 剛 (39) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 海外森林・林業事情 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	畑 邦彦 (51) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	寺本 行芳 (46) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	井倉 洋二 (59) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 演習林特別実習 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	李 載沄 (53) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	坂井 教郎 (48) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	香西 直子 (41) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	加治佐 剛 (39) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実践講義 海外森林・林業事情 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	畑 邦彦 (51) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	寺本 行芳 (46) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	井倉 洋二 (60) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 演習林特別実習 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林環境科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	李 載沄 (53) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	坂井 教郎 (48) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・食産業マネジメントプログラム アグリフードビジネス特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	香西(轟川) 直子 (41) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習2 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		赤木 功 (47) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習Ⅰ 植物生産科学実習Ⅱ 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		河邊 弘太郎 (53) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		奥山 洋一郎 (45) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・畜産業マネジメントプログラム 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実習講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
兼任 講師		坂本 文男 (65) <平成31年4月> 学士(水産)
		ビジネスツール実践演習
兼任 講師		小島 大輔 (39) <平成31年4月> 学士(学術)
		ビジネスツール実践演習
兼任 講師		松元 貴子 (46) <平成31年4月> 学士(工学)
		実用英語S

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		赤木 功 (47) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 植物生産科学実習Ⅰ 植物生産科学実習Ⅱ 植物生産科学基礎特論 ※ 植物生産科学特別講義 ※ 植物生産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		河邊 弘太郎 (53) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 畜産科学基礎特論 ※ 畜産科学特別実験 畜産科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		栗村 奈緒子 (36) <平成31年4月> 博士(理学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林環境科学特別講義 森林科学実習講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		奥山 洋一郎 (45) <平成31年4月> 博士(農学)
		農林資源科学倫理特論 農林資源科学特別研究Ⅰ 農林資源科学特別研究Ⅱ 農林資源科学特別研究Ⅲ 地域創生・畜産業マネジメントプログラム 森林科学基礎特論 森林科学特別実験 森林科学特別演習 森林資源科学特別講義 森林科学実習講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
兼任 講師		坂本 文男 (65) <平成31年4月> 学士(水産)
		ビジネスツール実践演習
兼任 講師		小島 大輔 (39) <平成31年4月> 学士(学術)
		ビジネスツール実践演習
兼任 講師		松元 貴子 (46) <平成31年4月> 学士(工学)
		実用英語S

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、括めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・平成30年8月 榮村助教 就任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
20	21	1	3	45	20	21	1	4	46
(20)	(21)	(1)	(4)	(46)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
42	3	0			44	2	0		
(44)	(2)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
20	21	1	4	46	20	21	1	4	46
[0]	[0]	[0]	[1]	[1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
44	2	0			44	2	0		
[2]	[Δ1]	[0]			[2]	[Δ1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{46}{45} = \boxed{102.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{46} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{45} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されず。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<農林水産学研究科 食品創成科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鹿児島大学では、鹿児島大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が、新任教員FD研修会の開催、学生・教職員ワークショップの開催、FD・SD合同フォーラムの開催、鹿児島大学版FDガイドの発行、大学IRコンソーシアム学生調査の実施、鹿児島大学FD報告書の発行等を行っている。農林水産学研究科でもファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。全学委員会と協力して、独自のFD活動に取り組む予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未開催。

c 委員会の審議事項等

鹿児島大学大学院農林水産学研究科常設委員会規則により、ファカルティ・ディベロップメント委員会の審議事項は、教育内容・方法及び改善に関する事項、教員の資質向上に関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメント委員会が必要と認める事項、と定められている。

② 実施状況

a 実施内容

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

b 実施方法

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

未実施のため、該当なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時に教育支援システムmanabaにより実施する。アンケート項目等を今後検討予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

鹿児島大学FD報告書に掲載し、ホームページで公開する。研究科内での公開方法等は今後検討予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成31年4月1日付け設置のため、本調査の報告時点（令和元年5月1日）では総括評価を行っていないが、引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を計画通り進めていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和3年度から評価機関（大学評価・学位授与機構）の認証評価を受ける都度、作成予定。

b 公表方法

作成後直ちに大学ホームページ上に公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 1日)

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人鹿児島大学

(2) 大学名

鹿児島大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

(郡元キャンパス)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

(下荒田キャンパス)

〒890-0056

鹿児島県鹿児島市下荒田四丁目50番20号

(大学本部)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	(サノ アキラ) 佐野 輝 (平成31年4月1日)		
研究科長	(ハシモト フミオ) 橋本 文雄 (平成31年4月1日)		
専攻長	(タカミネ カズノリ) 高峯 和則 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農林水産学研究科 食品創成科学専攻 修士(農学) 修士(水産学)	農学関係 水産学関係	2年	26人	年次 人	52人	農学部 水産学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和元年度				平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	令和元年度	令和元年度	春季入学	その他の学期	入学定員	編入学定員			
A 入学定員	26人 (-) [-]								
志願者数	33 (-) [6]	- (-) [-]							
受験者数	31 (-) [6]	- (-) [-]							
合格者数	30 (-) [6]	- (-) [-]							
B 入学者数	29 (-) [6]	- (-) [-]							
入学定員超過率 B/A	1.11								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度										備 考
	春季入学	その他の学期									
1年次	29 [6] (-)	- [-] (-)									
2年次	/										
計	29 [6] (-)										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	29 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<農林水産学研究科 食品創成科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			6	1						
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			5	1						
	小計(2科目)	-	4	0	0	11	2	0	0	0			
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		7	7			4			
	小計(1科目)	-	0	1	0	7	7	0	4	0			
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2							
	インターンシップB	1・2通		2		2							
	ビジネスツール実践演習	1前		2								2	
	実用英語S	1前		2								1	
	水産業の課題と未来	1・2通		2		3	4		1				
	Tropical Fisheries	1前		2			1						
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1				
	小計(7科目)	-	0	19	0	6	7	0	1	0	3		
	コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
		畜産科学基礎特論	1前		2		5	5		1			
森林科学基礎特論		1前		2		5	5		1				
食料農業経済学基礎特論		1前		2		1							
食品科学基礎特論		1前		2		2	5		2				
先端生命科学基礎特論		1前		2		3	6	2					
焼酎発酵・微生物科学基礎特論		1前		2		4	3		2				
生物環境科学基礎特論		1前		2		1	2		1				
環境システム学基礎特論		1前		2		2	3		4				
生物資源科学基礎特論		1前		2		2	5						
増養殖学基礎特論		1前		2		2	1		2				
環境保全学基礎特論		1前		2		2	1		1				
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	1							
小計(13科目)	-	0	26	0	37	44	3	15					
専攻共通科目	食品創成科学倫理特論	1前		1		10	14	2	4				
	食品創成科学特別研究Ⅰ	1前		3		10	14	2	4				
	食品創成科学特別研究Ⅱ	1後		4		10	14	2	4				
	食品創成科学特別研究Ⅲ	2通		2		10	14	2	4				
	小計(4科目)	-	10	0	0	10	14	2	4	0			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2						7			
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2						6			
	小計(2科目)	-	4	0	0	13	0	0	0	0		
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		8	7			4		
	小計(1科目)	-	0	1	0	8	7	0	4	0		
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2						
	インターンシップB	1・2通		2		2						
	ビジネスツール実践演習	1後		2								2
	実用英語S	1後		2								1
	水産業の課題と未来	1後		2		5	2			1		
	Tropical Fisheries	1前		2			1					
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1			
	国際バイテク・リーダー育成	1・2通		2		3	5	1	1			
	食品安全特論	1・2通			2		2					
	食品産業監査特論	1・2通			1		2					1
	マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論	1・2通			1		1					3
	食品加工論	1・2通			1	2	3					
	食品衛生論	1・2通			1				1			
	食品環境測定論	1・2通			1				2			
	食品産業国際規格論	1・2通			1		1					
	食品産業実習	1・2通			1				1			
	商品開発特論	隔年・前			2		1					
小計(17科目)	-	0	21	11	15	11	2	3	0	7		
コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
	畜産科学基礎特論	1前		2		4	5		1			
	森林科学基礎特論	1前		2		5	5		2			
	食料農業経済学基礎特論	1前		2		1						
	食品科学基礎特論	1前		2		2	6		1			
	先端生命科学基礎特論	1前		2		1	5	2				
	微生物科学基礎特論	1前		2		3	3		2			
	生物環境科学基礎特論	1前		2		1	2		1			
	環境システム学基礎特論	1前		2		2	3		4			
	生物資源科学基礎特論	1前		2		3	5					
	増養殖学基礎特論	1前		2		3	1		1			
	環境保全学基礎特論	1前		2		3			2			
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	2						
小計(13科目)	-	0	26	0	35	44	3	15				
専攻共通科目	食品創成科学倫理特論	1前		1		10	15	2	3			
	食品創成科学特別研究Ⅰ	1前		3		10	15	2	3			
	食品創成科学特別研究Ⅱ	1後		4		10	15	2	3			
	食品創成科学特別研究Ⅲ	2前		2		10	15	2	3			
	小計(4科目)	-	10	0	0	10	15	2	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
食品科学コース	食品科学特別講義	1前	2			3	5		2			
	食品科学特別演習	1前	2			3	5		2			
	食品安全特論	1・2通		2		1					2	
	食品産業監査特論	1・2通		1		1					1	
	マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論	1・2通		1							5	
	食品加工論	1・2通		1	2	3						
	食品衛生論	1・2通		1				1				
	食品環境測定論	1・2通		1		2						
	食品産業国際規格論	1・2通		1							3	
	食品産業実習	1・2通		1		1						
	先端バイオテクノロジー特論	1前		2							2	
小計(11科目)	-	4	2	9	5	5	1	2	0	13		
論文指導	-	-	-	-	3	5		2				
小計	-	-	-	-	3	5	0	2	0			
先端生命科学コース	先端生命科学特別講義	1前	2			3	6	2				
	先端生命科学特別演習	1前	2			3	6	2				
	小計(2科目)	-	4	0	0	3	6	2	0	0		
	論文指導	-	-	-	-	3	6	2				
小計	-	-	-	-	3	6	2	0	0			
焼酎発酵・微生物科学コース	焼酎発酵・微生物科学特別講義	1前	2			4	3		2			
	焼酎発酵・微生物科学特別演習	1前	2			4	3		2			
	商品開発特論	隔年・前		2		1					7	
	小計(3科目)	-	4	0	2	4	3	0	2	0	7	
	論文指導	-	-	-	-	4	3		2			
小計	-	-	-	-	4	3	0	2	0			
留学生プログラム	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2			1						
	Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1						
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後	2			1						
	Advanced Plant Production Science	1前	2			7	8					
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1通	2			10	14	2	4			
	農林水産科学リーディングコースⅡ	2通	2			10	14	2	4			
	小計(6科目)	-	4	8	0	18	22	2	4	0		
計(49科目)	-	30	56	11	37	44	3	15	0	23		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
食品科学コース	食品科学特別講義	1後	2			3	6		1				
	食品科学特別演習	1前	2			3	6		1				
	先端バイオテクノロジー特論	2前		2									
	HACCP監査研修	1・2通		2				1					
	小計(4科目)	-	4	4	0	3	6	0	1	0	0		
	論文指導	-	-	-	-	3	6		1				
	小計	-	-	-	-	3	6	0	1	0	0		
	先端生命科学コース	先端生命科学特別講義	1後	2			3	6	2				
		先端生命科学特別演習	1前	2			3	6	2				
		小計(2科目)	-	4	0	0	3	6	2	0	0		
		論文指導	-	-	-	-	3	6	2				
小計	-	-	-	-	3	6	2	0	0				
焼酎発酵・微生物科学コース	焼酎発酵・微生物科学特別講義	1後	2			4	3		2				
	焼酎発酵・微生物科学特別演習	1前	2			4	3		2				
	小計(2科目)	-	4	0	0	4	3	0	2	0	0		
	論文指導	-	-	-	-	4	3		2				
	小計	-	-	-	-	4	3	0	2	0			
留学生プログラム	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2			1							
	Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1							
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後	2			1							
	Advanced Plant Production Science	1前	2			7	8						
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1前	2			10	14	2	4				
	農林水産科学リーディングコースⅡ	1後	2			10	14	2	4				
	留学生日本語	1・2通		2				1					
小計(7科目)	-	4	10	0	18	22	2	4	0				
計(52科目)	-	30	60	15	37	44	3	15	0	7			

修了要件及び履修方法
<p>食品科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目の全て6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・「食品安全特論」(2単位)、「食品産業監査特論」(1単位)、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」(1単位)、「食品加工論」(1単位)、「食品衛生論」(1単位)、「食品環境測定論」(1単位)、「食品産業国際規格論」(1単位)、「食品産業実習」(1単位)を自由科目として履修できる。ただし、修了要件には入らない。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>先端生命科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目のすべて6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>焼酎発酵・微生物科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目の全て6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。「商品開発特論」(2単位)を自由単位として履修できる。ただし、修了要件には入らない。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>留学生プログラム</p> <p>留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。</p>

修了要件及び履修方法
<p>食品科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目の全て6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・「食品安全特論」(2単位)、「食品産業監査特論」(1単位)、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」(1単位)、「食品加工論」(1単位)、「食品衛生論」(1単位)、「食品環境測定論」(1単位)、「食品産業国際規格論」(1単位)、「食品産業実習」(1単位)を自由科目として履修できる。ただし、修了要件には入らない。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>先端生命科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目のすべて6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>焼酎発酵・微生物科学コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通(必修科目)の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。 ・専攻共通科目(食品創成科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。 ・食品創成科学専攻3コースが開講するコース基礎科目の全て6単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から2単位を選択必修として履修。 ・コース独自科目の中から、4単位は必修として履修。 ・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自コース及び他コースのその他科目(実習を含む)、他研究科・専攻・コースの科目(開講されている科目)の中から4単位を選択として履修。 <p>留学生プログラム</p> <p>留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

昇任人事の理由により、「食料生産における技術イノベーションと地域創生」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授7」に変更。
 昇任人事の理由により、「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授6」に変更。
 昇任人事の理由により、「沿岸域乗船実習」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「ビジネスツール実践演習」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「実用英語S」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 昇任人事の理由により、「水産業の課題と未来」の専任教員の配置を「准教授4」から「教授5」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「水産業の課題と未来」の配当年次を「1・2通」から「1後」に変更。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「国際バイオテック・リーダー育成」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「食品安全特論」「食品産業監査特論」「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」「食品加工論」「食品衛生論」「食品環境測定論」「食品産業国際規格論」「食品産業実習」の科目区分を食品創成科学専攻の食品コース独自科目から研究科共通科目のキャリア実践科目に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/16以降)の理由により、「食品安全特論」の専任教員の配置を「准教授1」「兼任・兼担2」から「准教授2」「兼任・兼担0」に変更。
 専任教員追加の理由により、「食品産業監査特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令の理由により、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担5」から「准教授1」「兼任・兼担3」に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/15以降)の理由により、「食品産業国際規格論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担3」から「准教授1」「兼任・兼担0」に変更。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「商品開発特論」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
 担当者変更の理由により、「畜産科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
 新規採用の理由により、「森林科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
 担当者変更の理由により、「先端生命科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授3」「准教授6」から「教授1」「准教授5」に変更。
 焼酎以外の微生物に関することも教授するため、より適切な名称として「焼酎発酵・微生物科学基礎特論」から「微生物科学基礎特論」に変更。
 担当者変更の理由により、「微生物科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
 昇任人事及び担当者追加の理由により、「環境保全学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「教授3」「助教2」に変更。
 担当者追加の理由により、「水産流通・政策学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品創成科学倫理特論」の専任教員の配置を「助教4」から「准教授15」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品創成科学特別研究Ⅰ」の専任教員の配置を「助教4」から「准教授15」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品創成科学特別研究Ⅱ」の専任教員の配置を「助教4」から「准教授15」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品創成科学特別研究Ⅲ」の専任教員の配置を「助教4」から「准教授15」に変更。
 教育効果の観点により、「食品創成科学特別研究Ⅲ」の配当年次を「2通」から「2前」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品科学特別講義」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
 教育効果の観点により、「食品科学特別講義」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品科学特別演習」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
 教育効果の観点により、「先端バイオテクノロジー特論」の配当年次を「1前」から「2前」へ変更。令和2年度開講のため令和元年度の専任教員の配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担0」へ変更。
 食の安全と監査ができる人材養成について各産業界からの要請を受けるとの理由により、「HACCP監査研修」を追加。
 教育効果の観点により、「先端生命科学特別講義」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 教育効果の観点により、「焼酎発酵・微生物科学特別講義」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅠ」の配当年次を「1通」から「1前」に変更。
 教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅡ」の配当年次を「2通」から「1後」に変更。
 開講の必要性の認識及びグローバルセンターの協力が得られることになり、「留学生日本語」を追加。

- (注) 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
14 科目	26 科目	9 科目	49 科目	14 科目 [0]	29 科目 [3]	9 科目 [0]	52 科目 [3]	

- (注) 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{49} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	525,967 510,722 m ²	0 m ²	0 m ²	525,967 510,722 m ²				
	運動場用地	106,929 m ²	0 m ²	0 m ²	106,929 m ²				
	小 計	632,896 617,651 m ²	0 m ²	0 m ²	632,896 617,651 m ²				
	そ の 他	35,960,681 35,976,028 m ²	0 m ²	0 m ²	35,960,681 35,976,028 m ²				
	合 計	36,593,577 36,593,679 m ²	0 m ²	0 m ²	36,593,577 36,593,679 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		208,888 m ² (208,888 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	208,888 m ² (208,888 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室 145 室	演 習 室 287 室	実験実習室 1,662 室	情報処理学習施設 29 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 5 室 (補助職員 0 人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 農林水産学研究科 食品創成科学専攻		室 数 42 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機 械・器 具 点	標 本 点	大学全体 教育研究の充実及び購入計画の見直し等による変更(元)	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
		共同獣医学研究科 獣医学専攻	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041] 42,674 [17,201]	36,010 [11,705] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]					6,242 [5,926] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]
		計	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041] 42,674 [17,201]	36,010 [11,705] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]					6,242 [5,926] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]
(6) 図 書 館		面 積 15,479 15,472 m ²	閱 覧 座 席 数 1,142 1,203 席	収 納 可 能 冊 数 1,205,000 1,227,583 冊		区分及び集計方法の見直し等による変更(元)			
(7) 体 育 館		面 積 4,658 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、武道場、室内プール、艇庫、弓道場						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鹿児島大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
法文学部						1.03				
法経社会学科	4	245	-	735	学士 (法学・経済学・学術)	1.03	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
人文学科	4	165	-	495	学士 (文学)	1.02	-	平成29年度	同上	
法政策学科	4	-	-	-	学士 (法学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
経済情報学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
人文学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	-	昭和54年度	同上	平成29年度学生募集停止
			3年次 10	20						編入学定員は学部全体の定員で外数。改組前の編入学定員は、平成31年度より学生募集停止。
教育学部						1.02				
学校教育教員養成課程	4	200	-	825	学士 (教育学)	1.02	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(25人)
特別支援教育教員養成課程	4	15	-	60	学士 (教育学)	1.01	-	昭和49年度	同上	
生涯教育総合課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
理学部						1.03				
数情報科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目21番35号	
物理科学科	4	45	-	180	学士 (理学)	1.03	-	平成9年度	同上	
生命化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	-	平成9年度	同上	
地球環境科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	同上	
医学部						1.00				
医学科	6	107	2年次 10	692	学士 (医学)	1.00	平成30年度	昭和30年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	(編入学定員は内数)
保健学科										
看護学専攻	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	-	平成11年度	同上	(編入学定員は内数)
理学療法専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上
作業療法専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上

歯学部						1.00					
歯学科	6	53	-	318	学士 (歯学)	1.00		昭和52年度	鹿児島市桜ヶ丘 八丁目35番1号		
工学部						1.04					
機械工学科	4	94	-	376	学士 (工学)	1.02	-	昭和30年度	鹿児島市郡元一 丁目21番40号		
電気電子工学科	4	78	-	312	学士 (工学)	1.05	-	平成4年度	同上		
建築学科	4	55	-	220	学士 (工学)	1.05	-	昭和30年度	同上		
環境化学プロセス工学科	4	35	-	140	学士 (工学)	1.03	-	平成21年度	同上		
海洋土木工学科	4	48	-	192	学士 (工学)	1.03	-	平成4年度	同上		
情報生体システム工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.05	-	平成21年度	同上		
化学生命工学科	4	50	-	200	学士 (工学)	1.04	-	平成21年度	同上		
			3年次 20	40							編入学定員は学部全 体の定員で外数。
農学部						1.03					
農業生産科学科	4	75	-	300	学士 (農学)	1.08	-	平成28年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号		
食料生命科学科	4	70	-	280	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上		
農林環境科学科	4	60	-	240	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上		
生物生産学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
生物資源化学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
生物環境学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
水産学部						1.04					
水産学科	4	140	-	560	学士 (水産学)	1.04	-	昭和50年度	鹿児島市下荒田 四丁目50番20号		平成27年度入学 定員増(10人)
水産教員養成課程	4	-	-	-	学士 (水産学)	-	-	昭和29年度	同上		平成27年度学生 募集停止
共同獣医学部						1.05					
獣医学科	6	30	-	180	学士 (獣医学)	1.05	-	平成24年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号		
大学全体	-	1905	60	7765	-	1.02	-	-	-		

大学の名称	鹿児島大学大学院								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
<<AC対象学部等>> [修士(博士前期)] 農林水産学研究科						0.95				
農林資源科学専攻	2	39	-	39	修士 (農学)	1.00	-	令和元年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号・ 鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
食品創成科学専攻	2	26	-	26	修士 (農学・水産学)	1.11	-	令和元年度	同上	
環境フィールド科学専攻	2	16	-	16	修士 (農学・水産学)	0.81	-	令和元年度	同上	
水産資源科学専攻	2	20	-	20	修士 (水産学)	0.75	-	令和元年度	同上	
人文社会科学研究科						0.83				
法学専攻	2	5	-	10	修士 (法学)	1.50	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
経済社会システム専攻	2	10	-	20	修士 (経済学・社会学)	0.65	-	平成10年度	同上	
人間環境文化論専攻	2	5	-	10	修士 (文学)	1.00	-	平成10年度	同上	
国際総合文化論専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.56	-	平成10年度	同上	
教育学研究科						0.88				
教育実践総合専攻	2	22	-	44	修士 (教育学)	0.88	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(16人)
医歯学総合研究科						1.35				
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	1.35	-	平成16年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
保健学研究科						1.08				
保健学専攻	2	22	-	44	修士 (保健学・看護学)	1.08	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科						1.01				
機械工学専攻	2	50	-	100	修士 (理学・工学・学術)	0.96	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
電気電子工学専攻	2	45	-	90	修士 (理学・工学・学術)	1.19	-	平成21年度	同上	
建築学専攻	2	25	-	50	修士 (理学・工学・学術)	1.08	-	平成21年度	同上	
化学生命・化学工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.06	-	平成21年度	同上	

海洋土木工学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	0.61	-	平成21年度	同上	
情報生体システム工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.02	-	平成21年度	同上	
数理情報科学専攻	2	14	-	28	修士 (理学・工学・学術)	0.78	-	平成21年度	同上	
物理・宇宙専攻	2	15	-	30	修士 (理学・工学・学術)	1.09	-	平成21年度	同上	
生命化学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	1.30	-	平成21年度	同上	
地球環境科学専攻	2	17	-	34	修士 (理学・工学・学術)	0.43	-	平成21年度	同上	
農学研究科										
生物生産学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号	令和元年度学生募集停止
生物資源化学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
生物環境学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
水産学研究科										
水産学専攻	2	-	-	-	修士 (水産学)	-	-	昭和54年度	鹿児島市下荒田四丁目50番20号	令和元年度学生募集停止
[博士後期]										
人文社会科学研究科										
地域政策科学専攻	3	6	-	18	博士 (学術)	0.83	-	平成15年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
医歯学総合研究科										
健康科学専攻	4	19	-	76	博士 (医学・歯学・学術)	0.87	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
先進治療科学専攻	4	31	-	124	博士 (医学・歯学・学術)	1.32	-	平成15年度	同上	
保健学研究科										
保健学専攻	3	6	-	18	博士 (保健学)	1.00	-	平成17年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科										
総合理工学専攻	3	24	-	72	博士 (理学・工学・学術)	0.49	-	平成28年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
物質生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
システム情報科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
生命環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
共同獣医学研究科										
						1.49				

獣医学専攻	4	6	-	12	博士 (獣医学)	1.49	-	平成30年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
連合農学研究科						1.25			
生物生産科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学・水産学・学術)	1.42	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
応用生命科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.24	-	平成21年度	同上
農水圏資源環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.12	-	平成21年度	同上
〔専門職学位課程〕									
教育学研究科						0.90			
学校教育実践高度化専攻	2	16	-	32	教職修士 (専門職)	0.90	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号
臨床心理学研究科						1.00			
臨床心理学専攻	2	15	-	30	臨床心理 修士 (専門職)	1.00	-	平成19年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号
大学院全体	-	615	-	1288	-	0.99	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<農林水産学研究科 食品創成科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	イブ ラヒム ヒシャム ラドワン Ibrahim Hisham Radwan (62) <平成31年4月> 博士(農学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 Functional Foods: Principles and Biofunctions 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	侯 徳興 (59) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	上西 由緒 (59) <平成31年4月> 博士(水産学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	安部 淳一 (64)(高) <平成31年4月> 博士(工学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	北原 兼文 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 食品加工論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	小松 正治 (51) <平成31年4月> 博士(水産学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ 水産業の課題と未来 ※

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	イブ ラヒム ヒシャム ラドワン Ibrahim Hisham Radwan (62) <平成31年4月> 博士(農学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 Functional Foods: Principles and Biofunctions 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	侯 徳興 (59) <平成31年4月> 博士(農学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	上西 由緒 (59) <平成31年4月> 博士(水産学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	安部 淳一 (64)(高) <平成31年4月> 博士(工学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	北原 兼文 (53) <平成31年4月> 博士(農学)	食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 食品加工論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専任	教授	小松 正治 (51) <平成31年4月> 博士(水産学)	食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ 水産業の課題と未来 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石橋 松二郎 (48) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	高峰 和則 (54) <平成31年4月> 博士(農学)
		食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 商品開発特論 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	玉置 尚徳 (58) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	岩井 久 (62) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	紙谷 喜則 (55) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 食品安全特論 ※ 食品産業監査特論 ※ 食品加工論 ※ 食品産業実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	進藤 穰 (57) <平成31年4月> 博士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石橋 松二郎 (48) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授 (専攻長)	高▲▲ 和則 (65) <平成31年4月> 博士(農学)
		食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 商品開発特論 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	玉置 尚徳 (69) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	岩井 久 (62) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	紙谷 喜則 (55) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 食品安全特論 ※ 食品産業監査特論 ※ マクドナルド☆グライ マエーン品質・安全特論※ HACCP監査研修 食品産業国際規格論 食品加工論 ※ 食品産業実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	進藤 穰 (57) <平成31年4月> 博士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	南 雄二 (58) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	ムンデルランジ カサノイ ムツネガール Mundelanji Catherine Mthangeyi VESTERGAARD (53) <平成31年4月> 博士(生化学・微生物学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	二神 泰基 (38) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	吉崎 由美子 (39) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	中村 正幸 (44) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	加治屋(横山) 勝子 (42) <平成31年4月> 博士(食品栄養科学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 食品衛生論 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	山田 章二 (62) <平成31年4月> 修士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	南 雄二 (58) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	ムンデルランジ カサノイ ムツネガール Mundelanji Catherine Mthangeyi VESTERGAARD (53) <平成31年4月> 博士(生化学・微生物学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	二神 泰基 (38) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	吉崎 由美子 (39) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	中村 正幸 (45) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 微生物学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物学特別講義 焼酎発酵・微生物学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	加治屋(横山) 勝子 (42) <平成31年4月> 博士(食品栄養科学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 食品衛生論 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	講師	山田 章二 (62) <平成31年4月> 修士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 先端生命科学基礎特論 ※ 先端生命科学特別講義 先端生命科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		加藤 早苗 (52) <平成31年4月> 博士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		坂尾 こず枝 (41) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 特任助教		奥津(神戸) 果優 (38) <平成31年4月> 博士(薬学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		鶴丸 博人 (40) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
兼任 講師		福島 誠治 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
兼任 講師		ビザン ポウコムリア Bizhan Pourkomailla (50) <平成31年4月> 博士(微生物生理学)
兼任 講師		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		小山 郁 (43) <平成31年4月> 学士(農芸化学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		渡邊 良輔 (39) <平成31年4月> 修士(理学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		森谷 亮 (39) <平成31年4月> 修士(工学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		野寺 武志 (34) <平成31年4月> 修士(食品栄養学、食品化学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		岸 克樹 (49) <平成31年4月> 修士(農学、経営学)
		食品産業国際規格論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		加藤 早苗 (52) <平成31年4月> 博士(水産学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		坂尾 こず枝 (41) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 食品科学基礎特論 ※ 食品科学特別講義 食品科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		奥津(神戸) 果優 (38) <平成31年4月> 博士(薬学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 助教		鶴丸 博人 (40) <平成31年4月> 博士(農学)
		食品創成科学倫理特論 食品創成科学特別研究Ⅰ 食品創成科学特別研究Ⅱ 食品創成科学特別研究Ⅲ 焼酎発酵・微生物科学基礎特論 ※ 焼酎発酵・微生物科学特別講義 焼酎発酵・微生物科学特別演習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
兼任 講師		
兼任 講師		
兼任 講師		
兼任 講師		小山 郁 (43) <平成31年4月> 学士(農芸化学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		渡邊 良輔 (39) <平成31年4月> 修士(理学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		野寺 武志 (34) <平成31年4月> 修士(食品栄養学、食品化学)
		マクドナルドサプライチェーン 品質・安全特論※
兼任 講師		岸 克樹 (49) <平成31年4月> 修士(農学、経営学)

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・平成30年10月 加藤助教が准教授へ昇任。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
9	14	2	4	29	10	15	2	3	30
(10)	(15)	(2)	(2)	(29)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
29	0	0			30	0	0		
(30)	(0)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	16	2	3	31	10	16	2	3	31
[1]	[2]	[0]	[Δ1]	[2]	[1]	[2]	[0]	[Δ1]	[2]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
31	0	0			31	0	0		
[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、 定年を延長して採用している 教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、 定年を延長して採用する 教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{31}{29} = \boxed{106.89} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されず。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<農林水産学研究科 食品創成科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鹿児島大学では、鹿児島大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が、新任教員FD研修会の開催、学生・教職員ワークショップの開催、FD・SD合同フォーラムの開催、鹿児島大学版FDガイドの発行、大学IRコンソーシアム学生調査の実施、鹿児島大学FD報告書の発行等を行っている。農林水産学研究科でもファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。全学委員会と協力して、独自のFD活動に取り組む予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未開催。

c 委員会の審議事項等

鹿児島大学大学院農林水産学研究科常設委員会規則により、ファカルティ・ディベロップメント委員会の審議事項は、教育内容・方法及び改善に関する事項、教員の資質向上に関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメント委員会が必要と認める事項、と定められている。

② 実施状況

a 実施内容

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

b 実施方法

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

未実施のため、該当なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時に教育支援システムmanabaにより実施する。アンケート項目等を今後検討予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

鹿児島大学FD報告書に掲載し、ホームページで公開する。研究科内での公開方法等は今後検討予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成31年4月1日付け設置のため、本調査の報告時点（令和元年5月1日）では総括評価を行っていないが、引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を計画通り進めていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和3年度から評価機関（大学評価・学位授与機構）の認証評価を受ける都度、作成予定。

b 公表方法

作成後直ちに大学ホームページ上に公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 1日)

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人鹿児島大学

(2) 大学名

鹿児島大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

(郡元キャンパス)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

(下荒田キャンパス)

〒890-0056

鹿児島県鹿児島市下荒田四丁目50番20号

(大学本部)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	(サノ アキラ) 佐野 輝 (平成31年4月1日)		
研究科長	(ハシモト フミオ) 橋本 文雄 (平成31年4月1日)		
専攻長	(シゲヒロ リツオ) 重廣 律男 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農林水産学研究科 環境フィールド 科学専攻 修士(農学) 修士(水産学)	農学関係 水産学関係	2年	16人	年次 人	32人	農学部 水産学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和元年度						平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期									
A 入学定員	16人 (-) [-]	人							0.81倍	一倍	
志願者数	14 (-) [-]	- (-) [-]									
受験者数	13 (-) [-]	- (-) [-]									
合格者数	13 (-) [-]	- (-) [-]									
B 入学者数	13 (-) [-]	- (-) [-]									
入学定員超過率 B/A	0.81										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度										備 考
	春季入学	その他の学期									
1 年次	13 [-] (-)	- [-] (-)									
2 年次	/										
計	13 [-] (-)										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	13 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<農林水産学研究科 環境フィールド科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			6	1						
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			5	1						
	小計(2科目)	-	4	0	0	11	2	0	0	0			
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		7	7		4				
	小計(1科目)	-	0	1	0	7	7	0	4	0			
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2							
	インターンシップB	1・2通		2		2							
	ビジネスツール実践演習	1前		2							2		
	実用英語S	1前		2							1		
	水産業の課題と未来	1・2通		2		3	4		1				
	Tropical Fisheries	1前		2			1						
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1				
	小計(7科目)	-	0	19	0	6	7	0	1	0	3		
	コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
		畜産科学基礎特論	1前		2		5	5		1			
森林科学基礎特論		1前		2		5	5		1				
食料農業経済学基礎特論		1前		2		1							
食品科学基礎特論		1前		2		2	5		2				
先端生命科学基礎特論		1前		2		3	6	2					
焼酎発酵・微生物科学基礎特論		1前		2		4	3		2				
生物環境科学基礎特論		1前		2		1	2		1				
環境システム学基礎特論		1前		2		2	3		4				
生物資源科学基礎特論		1前		2		2	5						
増養殖学基礎特論		1前		2		2	1		2				
環境保全学基礎特論	1前		2		2	1		1					
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	1							
小計(13科目)	-	0	26	0	37	44	3	15					
専攻共通科目	環境フィールド科学倫理特論	1前		1		8	5		5				
	環境フィールド科学特別研究Ⅰ	1前		3		8	5		5				
	環境フィールド科学特別研究Ⅱ	1後		4		8	5		5				
	環境フィールド科学特別研究Ⅲ	2通		2		8	5		5				
	小計(4科目)	-	10	0	0	8	5	0	5	0			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			7						
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			6						
	小計(2科目)	-	4	0	0	13	0	0	0	0		
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		8	7		4			
	小計(1科目)	-	0	1	0	8	7	0	4	0		
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2						
	インターンシップB	1・2通		2		2						
	ビジネスツール実践演習	1後		2							2	
	実用英語S	1後		2							1	
	水産業の課題と未来	1後		2		5	2		1			
	Tropical Fisheries	1前		2			1					
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1			
	国際バイテク・リーダー育成	1・2通		2		3	5	1	1			
	食品安全特論	1・2通			2		2					
	食品産業監査特論	1・2通			1		2					1
	マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論	1・2通			1		1					3
	食品加工論	1・2通			1	2	3					
	食品衛生論	1・2通			1				1			
	食品環境測定論	1・2通			1				2			
	食品産業国際規格論	1・2通			1		1					
	食品産業実習	1・2通			1				1			
	商品開発特論	隔年・前			2		1					
小計(17科目)	-	0	21	11	15	11	2	3	0	7		
コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
	畜産科学基礎特論	1前		2		4	5		1			
	森林科学基礎特論	1前		2		5	5		2			
	食料農業経済学基礎特論	1前		2		1						
	食品科学基礎特論	1前		2		2	6		1			
	先端生命科学基礎特論	1前		2		1	5	2				
	微生物科学基礎特論	1前		2		3	3		2			
	生物環境科学基礎特論	1前		2		1	2		1			
	環境システム学基礎特論	1前		2		2	3		4			
	生物資源科学基礎特論	1前		2		3	5					
	増養殖学基礎特論	1前		2		3	1		1			
環境保全学基礎特論	1前		2		3			2				
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	2						
小計(13科目)	-	0	26	0	35	44	3	15				
専攻共通科目	環境フィールド科学倫理特論	1前		1		8	5		5			
	環境フィールド科学特別研究Ⅰ	1前		3		8	5		5			
	環境フィールド科学特別研究Ⅱ	1後		4		8	5		5			
	環境フィールド科学特別研究Ⅲ	2前		2		8	5		5			
	小計(4科目)	-	10	0	0	8	5	0	5	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
生物環境科学 コース	生物環境科学特別講義	1通	2			3	2		1		
	小計(1科目)	-	2	0	0	3	2	0	1	0	
	論文指導	-				3	2		1		
	小計	-				3	2	0	1	0	
環境システム科学 独自科目	解析学特別講義	1通		2		3	1				
	ICT・ロボット技術特別講義	1通		2		2			3		
	水科学特論	1前		2		1					
	小計(3科目)	-	0	6	0	5	1	0	3	0	
環境システム科学 コース 留科目	外洋域乗船実習	1通		1		1			1		
	フィールド計測実習	1通		1		1	3		1		
	小計(2科目)	-	0	2	0	2	3	0	2	0	
	論文指導	-				5	3		4		
小計	-				5	3	0	4	0		
留学生プログラム 留学生向け科目	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy Fisheries & Fisheries Sciences	1後 1前	2 2			1 1					
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後	2			1					
	Advanced Plant Production Science	1前	2			7	8				
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1通	2			8	5		5		
	農林水産科学リーディングコースⅡ	2通	2			8	5		5		
	小計(6科目)	-	4	8	0	17	14	0	5	0	
計(39科目)			20	62	0	42	44	3	15	0	3

修了要件及び履修方法

生物環境科学コース
 ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
 ・コース基礎科目の中から自コース開講(2単位)を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
 ・専攻共通科目(環境フィールド科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。
 ・コース独自科目の中から、2単位を必修として履修。
 ・研究科共通(実験実習科目)、コース実験実習科目の中から2単位は選択として履修。
 ・研究科共通(キャリア実践科目)、他コース・他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から6単位を選択して履修。選択必修単位を越えて履修した他コースのコース基礎科目や実験実習科目を含むこともできる。

環境システム科学コース
 ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
 ・コース基礎科目の中から自コース開講(2単位)を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
 ・専攻共通科目(環境フィールド科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。
 ・コース独自科目の中から、2単位を選択必修として履修。
 ・研究科共通(実験実習科目)、コース実験実習科目の中から1単位は選択として履修。
 ・研究科共通(キャリア実践科目)、他コース・他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から7単位を選択して履修。選択必修単位を越えて履修した他コースのコース基礎科目や実験実習科目を含むこともできる。

留学生プログラム
 留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
生物環境科学 コース	生物環境科学特別講義	1後	2			3	2		1		
	小計(1科目)	-	2	0	0	3	2	0	1	0	
	論文指導	-				3	2		1		
	小計	-				3	2	0	1	0	
環境システム科学 独自科目	解析学特別講義	1後		2		3	1				
	ICT・ロボット技術特別講義	1後		2		2			3		
	水科学特論	1後		2		1					
	小計(3科目)	-	0	6	0	5	1	0	3	0	
環境システム科学 コース 留科目	外洋域乗船実習	1後 1前		1		1			1		
	フィールド計測実習	1前		1		1	3		1		
	小計(2科目)	-	0	2	0	2	3	0	2	0	
	論文指導	-				5	3		4		
小計	-				5	3	0	4	0		
留学生プログラム 留学生向け科目	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy Fisheries & Fisheries Sciences	1後 1前	2 2			1 1					
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後	2			1					
	Advanced Plant Production Science	1前	2			7	8				
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1前	2			8	5		5		
	農林水産科学リーディングコースⅡ	1後	2			8	5		5		
	留学生日本語	1・2通	2			1					
小計(7科目)	-	4	10	0	17	14	0	5	0		
計(50科目)			20	64	13	42	44	3	15	0	7

修了要件及び履修方法

生物環境科学コース
 ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
 ・コース基礎科目の中から自コース開講(2単位)を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
 ・専攻共通科目(環境フィールド科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。
 ・コース独自科目の中から、2単位を必修として履修。
 ・研究科共通(実験実習科目)、コース実験実習科目の中から2単位は選択として履修。
 ・研究科共通(キャリア実践科目)、他コース・他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から6単位を選択して履修。選択必修単位を越えて履修した他コースのコース基礎科目や実験実習科目を含むこともできる。

環境システム科学コース
 ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
 ・コース基礎科目の中から自コース開講(2単位)を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
 ・専攻共通科目(環境フィールド科学倫理特論(1単位)、特別研究Ⅰ(3単位)、特別研究Ⅱ(4単位)、特別研究Ⅲ(2単位))計10単位を必修として履修。
 ・コース独自科目の中から、2単位を選択必修として履修。
 ・研究科共通(実験実習科目)、コース実験実習科目の中から1単位は選択として履修。
 ・研究科共通(キャリア実践科目)、他コース・他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から7単位を選択して履修。選択必修単位を越えて履修した他コースのコース基礎科目や実験実習科目を含むこともできる。

留学生プログラム
 留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**として記入してください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・昇任人事の理由により、「食料生産における技術イノベーションと地域創生」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授7」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授6」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「沿岸域乗船実習」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「ビジネスツール実践演習」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「実用英語S」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「水産業の課題と未来」の専任教員の配置を「准教授4」から「教授5」に変更。
- ・教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「水産業の課題と未来」の配当年次を「1・2通」から「1後」に変更。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「国際バイオテック・リーダー育成」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「食品安全特論」「食品産業監査特論」「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」「食品加工論」「食品衛生論」「食品環境測定論」「食品産業国際規格論」「食品産業実習」の科目区分を食品創成科学専攻の食品コース独自科目から研究科共通科目のキャリア実践科目に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/16以降)の理由により、「食品安全特論」の専任教員の配置を「准教授1」「兼任・兼担2」から「准教授2」「兼任・兼担0」に変更。
- ・専任教員追加の理由により、「食品産業監査特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令の理由により、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担5」から「准教授1」「兼任・兼担3」に変更。
- ・専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/15以降)の理由により、「食品産業国際規格論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担3」から「准教授1」「兼任・兼担0」に変更。
- ・講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「商品開発特論」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
- ・担当者変更の理由により、「畜産科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
- ・新規採用の理由により、「森林科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・昇任人事の理由により、「食品科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「先端生命科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授3」「准教授6」から「教授1」「准教授5」に変更。
- ・焼酎以外の微生物に関することも教授するため、より適切な名称として「焼酎発酵・微生物科学基礎特論」から「微生物科学基礎特論」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「微生物科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
- ・昇任人事及び担当者追加の理由により、「環境保全学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「教授3」「助教2」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「水産流通・政策学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・教育効果の観点により、「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」の配当年次を「2通」から「2前」に変更。
- ・実習の開講期確定に伴い講義科目の開講期を絞り込んだことにより、「生物環境科学特別講義」の配当年次を「1通」から「1後」に変更。
- ・教育効果の観点により、「解析学特別講義」の配当年次を「1通」から「1後」に変更。
- ・実習の開講期確定に伴い講義科目の開講期を絞り込んだことにより、「ICT・ロボット技術特別講義」の配当年次を「1通」から「1後」に変更。
- ・実習の開講期確定に伴い講義科目の開講期を絞り込んだことにより、「水科学特論」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・練習船の航海期が確定したことにより、「外洋域乗船実習」の配当年次を「1通」から「1後」に変更。
- ・練習船の航海期が確定したことにより、「フィールド計測実習」の配当年次を「1通」から「1前」に変更。
- ・教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅠ」の配当年次を「1通」から「1前」に変更。
- ・教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅡ」の配当年次を「2通」から「1後」に変更。
- ・開講の必要性の認識及びグローバルセンターの協力が得られることになり、「留学生日本語」を追加。

- (注) ・ 2(1)①授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
9	30	0	39	9	32	9	50	
	科目	科目	科目	[0]	[2]	[9]	[11]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{39} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	525,967 510,722 m ²	0 m ²	0 m ²	525,967 510,722 m ²				
	運動場用地	106,929 m ²	0 m ²	0 m ²	106,929 m ²				
	小 計	632,896 617,651 m ²	0 m ²	0 m ²	632,896 617,651 m ²				
	そ の 他	35,960,681 35,976,028 m ²	0 m ²	0 m ²	35,960,681 35,976,028 m ²				
	合 計	36,593,577 36,593,679 m ²	0 m ²	0 m ²	36,593,577 36,593,679 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		208,888 m ² (208,888 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	208,888 m ² (208,888 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室 145 室	演 習 室 287 室	実験実習室 1,662 室	情報処理学習施設 29 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 5 室 (補助職員 0 人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 農林水産学研究科 環境フィールド科学専攻		室 数 25 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 教育研究の充実及び購入計画の見直し等による変更(元)	
		共同獣医学研究科 獣医学専攻	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041]	6,242 [5,926] 5,509 [5,506]					8,439 8,563
			42,674 [17,201]	6,927 [5,586]					8,432
			36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041]	6,242 [5,926] 5,509 [5,506]					8,439 8,563
			42,674 [17,201]	6,927 [5,586]					8,432
計	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041]	6,242 [5,926] 5,509 [5,506]	8,439 8,563						
(6) 図 書 館	面 積 15,479 15,472 m ²	閱 覧 座 席 数 1,142 1,203 席	収 納 可 能 冊 数 1,205,000 1,227,583 冊	区分及び集計方法の見直し等による変更(元)					
(7) 体 育 館	面 積 4,658 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、武道場、室内プール、艇庫、弓道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鹿児島大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
法文学部						1.03				
法経社会学科	4	245	-	735	学士 (法学・経済学・学術)	1.03	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
人文学科	4	165	-	495	学士 (文学)	1.02	-	平成29年度	同上	
法政策学科	4	-	-	-	学士 (法学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
経済情報学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
人文学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	-	昭和54年度	同上	平成29年度学生募集停止
			3年次 10	20						編入学定員は学部全体の定員で外数。改組前の編入学定員は、平成31年度より学生募集停止。
教育学部						1.02				
学校教育教員養成課程	4	200	-	825	学士 (教育学)	1.02	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(25人)
特別支援教育教員養成課程	4	15	-	60	学士 (教育学)	1.01	-	昭和49年度	同上	
生涯教育総合課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
理学部						1.03				
数情報科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目21番35号	
物理科学科	4	45	-	180	学士 (理学)	1.03	-	平成9年度	同上	
生命化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	-	平成9年度	同上	
地球環境科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	同上	
医学部						1.00				
医学科	6	107	2年次 10	692	学士 (医学)	1.00	平成30年度	昭和30年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	(編入学定員は内数)
保健学科										
看護学専攻	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	-	平成11年度	同上	(編入学定員は内数)
理学療法学専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上
作業療法学専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上

歯学部						1.00					
歯学科	6	53	-	318	学士 (歯学)	1.00		昭和52年度	鹿児島市桜ヶ丘 八丁目35番1号		
工学部						1.04					
機械工学科	4	94	-	376	学士 (工学)	1.02	-	昭和30年度	鹿児島市郡元一 丁目21番40号		
電気電子工学科	4	78	-	312	学士 (工学)	1.05	-	平成4年度	同上		
建築学科	4	55	-	220	学士 (工学)	1.05	-	昭和30年度	同上		
環境化学プロセス工学科	4	35	-	140	学士 (工学)	1.03	-	平成21年度	同上		
海洋土木工学科	4	48	-	192	学士 (工学)	1.03	-	平成4年度	同上		
情報生体システム工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.05	-	平成21年度	同上		
化学生命工学科	4	50	-	200	学士 (工学)	1.04	-	平成21年度	同上		
			3年次 20	40							編入学定員は学部全 体の定員で外数。
農学部						1.03					
農業生産科学科	4	75	-	300	学士 (農学)	1.08	-	平成28年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号		
食料生命科学科	4	70	-	280	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上		
農林環境科学科	4	60	-	240	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上		
生物生産学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
生物資源化学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
生物環境学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上		平成28年度学生 募集停止
水産学部						1.04					
水産学科	4	140	-	560	学士 (水産学)	1.04	-	昭和50年度	鹿児島市下荒田 四丁目50番20号		平成27年度入学 定員増(10人)
水産教員養成課程	4	-	-	-	学士 (水産学)	-	-	昭和29年度	同上		平成27年度学生 募集停止
共同獣医学部						1.05					
獣医学科	6	30	-	180	学士 (獣医学)	1.05	-	平成24年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号		
大学全体	-	1905	60	7765	-	1.02	-	-	-		

大学の名称	鹿児島大学大学院								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
<<AC対象学部等>> [修士(博士前期)] 農林水産学研究科						0.95				
農林資源科学専攻	2	39	-	39	修士 (農学)	1.00	-	令和元年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号・鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
食品創成科学専攻	2	26	-	26	修士 (農学・水産学)	1.11	-	令和元年度	同上	
環境フィールド科学専攻	2	16	-	16	修士 (農学・水産学)	0.81	-	令和元年度	同上	
水産資源科学専攻	2	20	-	20	修士 (水産学)	0.75	-	令和元年度	同上	
人文社会科学研究科						0.83				
法学専攻	2	5	-	10	修士 (法学)	1.50	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
経済社会システム専攻	2	10	-	20	修士 (経済学・社会学)	0.65	-	平成10年度	同上	
人間環境文化論専攻	2	5	-	10	修士 (文学)	1.00	-	平成10年度	同上	
国際総合文化論専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.56	-	平成10年度	同上	
教育学研究科						0.88				
教育実践総合専攻	2	22	-	44	修士 (教育学)	0.88	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(16人)
医歯学総合研究科						1.35				
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	1.35	-	平成16年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
保健学研究科						1.08				
保健学専攻	2	22	-	44	修士 (保健学・看護学)	1.08	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科						1.01				
機械工学専攻	2	50	-	100	修士 (理学・工学・学術)	0.96	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
電気電子工学専攻	2	45	-	90	修士 (理学・工学・学術)	1.19	-	平成21年度	同上	
建築学専攻	2	25	-	50	修士 (理学・工学・学術)	1.08	-	平成21年度	同上	
化学生命・化学工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.06	-	平成21年度	同上	

海洋土木工学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	0.61	-	平成21年度	同上	
情報生体システム工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.02	-	平成21年度	同上	
数理情報科学専攻	2	14	-	28	修士 (理学・工学・学術)	0.78	-	平成21年度	同上	
物理・宇宙専攻	2	15	-	30	修士 (理学・工学・学術)	1.09	-	平成21年度	同上	
生命化学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	1.30	-	平成21年度	同上	
地球環境科学専攻	2	17	-	34	修士 (理学・工学・学術)	0.43	-	平成21年度	同上	
農学研究科										
生物生産学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号	令和元年度学生募集停止
生物資源化学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
生物環境学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
水産学研究科										
水産学専攻	2	-	-	-	修士 (水産学)	-	-	昭和54年度	鹿児島市下荒田四丁目50番20号	令和元年度学生募集停止
〔博士後期〕										
人文社会科学研究科										
地域政策科学専攻	3	6	-	18	博士 (学術)	0.83	-	平成15年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
医歯学総合研究科										
健康科学専攻	4	19	-	76	博士 (医学・歯学・学術)	0.87	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
先進治療科学専攻	4	31	-	124	博士 (医学・歯学・学術)	1.32	-	平成15年度	同上	
保健学研究科										
保健学専攻	3	6	-	18	博士 (保健学)	1.00	-	平成17年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科										
総合理工学専攻	3	24	-	72	博士 (理学・工学・学術)	0.49	-	平成28年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
物質生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
システム情報科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
生命環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
共同獣医学研究科										
						1.49				

獣医学専攻	4	6	-	12	博士 (獣医学)	1.49	-	平成30年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
連合農学研究科						1.25			
生物生産科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学・水産学・学術)	1.42	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
応用生命科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.24	-	平成21年度	同上
農水圏資源環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.12	-	平成21年度	同上
〔専門職学位課程〕									
教育学研究科						0.90			
学校教育実践高度化専攻	2	16	-	32	教職修士 (専門職)	0.90	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号
臨床心理学研究科						1.00			
臨床心理学専攻	2	15	-	30	臨床心理 修士 (専門職)	1.00	-	平成19年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号
大学院全体	-	615	-	1288	-	0.99	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<農林水産学研究科 環境フィールド科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 教授		寺田 竜太 (46) <平成31年4月> 博士(水産学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		本村 浩之 (45) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		山本 智子 (52) <平成31年4月> 博士(理学)	環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ 環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		芝山 道郎 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ IoT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		梶井 和朗 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 解析学特別講義 ※ 水科学特論 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		重廣 律男 (64)(高) <平成31年4月> 博士(工学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専 教授		寺田 竜太 (46) <平成31年4月> 博士(水産学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		本村 浩之 (45) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		山本 智子 (53) <平成31年4月> 博士(理学)	環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ インターンシップA インターンシップB 環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		芝山 道郎 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ IoT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		梶井 和朗 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 解析学特別講義 ※ 水科学特論 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		重廣 律男 (64)(高) <平成31年4月> 博士(工学)	環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		中村 啓彦 (54) <平成31年4月> 博士(理学)
		環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ 環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境システム基礎特論※ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		西 隆一郎 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 環境システム基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		小針 統 (47) <平成31年4月> 博士(水産学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		久米 元 (45) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		神田 英司 (52) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム基礎特論※ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		伊藤 祐二 (42) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		中村 啓彦 (54) <平成31年4月> 博士(理学)
		環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ 環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境システム基礎特論※ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 教授		西 隆一郎 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 環境システム基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		小針 統 (47) <平成31年4月> 博士(水産学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		久米 元 (45) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		神田 英司 (52) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム基礎特論※ 解析学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専 准教授		伊藤 祐二 (42) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名	
専	准教授	肥山 浩樹 (57) <平成31年4月> 博士(農学)	専	准教授	肥山 浩樹 (57) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム学基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム学基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	遠藤 光 (38) <平成31年4月> 博士(農学)	専	助教	遠藤 光 (38) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境生物科学基礎特論※ 環境生物科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	末吉 武志 (49) <平成31年4月> 修士(農学)	専	助教	末吉 武志 (49) <平成31年4月> 修士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	平 瑞樹 (54) <平成31年4月> 博士(農学)	専	助教	平 瑞樹 (54) <平成31年4月> 博士(農学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ フィールド計測実習 ※ 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	須本 祐史 (37) <平成31年4月> 博士(工学)	専	助教	須本 祐史 (37) <平成31年4月> 博士(工学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境システム学基礎特論※ ICT・ロボット技術特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	仁科 文子 (49) <平成31年4月> 博士(工学)	専	助教	仁科 文子 (49) <平成31年4月> 博士(工学)
		環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境システム学基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ			環境フィールド科学倫理特論 環境フィールド科学特別研究Ⅰ 環境フィールド科学特別研究Ⅱ 環境フィールド科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 外洋域乗船実習 環境システム学基礎特論※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から重要となつている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
8	5	0	5	18	8	5	0	5	18
(8)	(5)	(0)	(5)	(18)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
15	3	0			16	2	0		
(16)	(2)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
7	5	0	5	17	7	5	0	5	17
[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
15	2	0			15	2	0		
[0]	[Δ1]	[0]			[0]	[Δ1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{17}{18} = \boxed{94.44} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{18} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されず。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<農林水産学研究科 環境フィールド科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鹿児島大学では、鹿児島大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が、新任教員FD研修会の開催、学生・教職員ワークショップの開催、FD・SD合同フォーラムの開催、鹿児島大学版FDガイドの発行、大学IRコンソーシアム学生調査の実施、鹿児島大学FD報告書の発行等を行っている。農林水産学研究科でもファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。全学委員会と協力して、独自のFD活動に取り組む予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未開催。

c 委員会の審議事項等

鹿児島大学大学院農林水産学研究科常設委員会規則により、ファカルティ・ディベロップメント委員会の審議事項は、教育内容・方法及び改善に関する事項、教員の資質向上に関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメント委員会が必要と認める事項、と定められている。

② 実施状況

a 実施内容

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

b 実施方法

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

未実施のため、該当なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時に教育支援システムmanabaにより実施する。アンケート項目等を今後検討予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

鹿児島大学FD報告書に掲載し、ホームページで公開する。研究科内での公開方法等は今後検討予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成31年4月1日付け設置のため、本調査の報告時点（令和元年5月1日）では総括評価を行っていないが、引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を計画通り進めていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和3年度から評価機関（大学評価・学位授与機構）の認証評価を受ける都度、作成予定。

b 公表方法

作成後直ちに大学ホームページ上に公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 1日)

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人鹿児島大学

(2) 大学名

鹿児島大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

(下荒田キャンパス)

〒890-0056

鹿児島県鹿児島市下荒田四丁目50番20号

(大学本部)

〒890-8580

鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	(サノ アキラ) 佐野 輝 (平成31年4月1日)		
研究科長	(ハシモト フミオ) 橋本 文雄 (平成31年4月1日)		
専攻長	(サノ マサアキ) 佐野 雅昭 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農林水産学研究科 水産資源科学専攻 修士(水産学)	水産学関係	2年	20人	年次人	40人	水産学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和元年度				平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	令和元年度		春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人	人	20人	(-)	[1]				
志願者数	15	-	(-)	(-)	[1]	[-]			
受験者数	15	-	(-)	(-)	[1]	[-]			
合格者数	15	-	(-)	(-)	[1]	[-]			
B 入学者数	15	-	(-)	(-)	[1]	[-]			
入学定員超過率 B/A	0.75							0.75倍	一倍

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度										備 考
	春季入学	その他の学期									
1年次	15 [1] (-)	[] (-)									
2年次	/										
計	15 [1] (-)										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	15 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<農林水産学研究科 水産資源科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			6	1						
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			5	1						
	小計(2科目)	-	4	0	0	11	2	0	0	0			
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		7	7		4				
	小計(1科目)	-	0	1	0	7	7	0	4	0			
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2							
	インターンシップB	1・2通		2		2							
	ビジネスツール実践演習	1前		2							2		
	実用英語S	1前		2							1		
	水産業の課題と未来	1・2通		2		3	4		1				
	Tropical Fisheries	1前		2			1						
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1				
	小計(7科目)	-	0	19	0	6	7	0	1	0	3		
	コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
		畜産科学基礎特論	1前		2		5	5		1			
森林科学基礎特論		1前		2		5	5		1				
食料農業経済学基礎特論		1前		2		1							
食品科学基礎特論		1前		2		2	5		2				
先端生命科学基礎特論		1前		2		3	6	2					
焼酎発酵・微生物科学基礎特論		1前		2		4	3		2				
生物環境科学基礎特論		1前		2		1	2		1				
環境システム学基礎特論		1前		2		2	3		4				
生物資源科学基礎特論		1前		2		2	5						
増養殖学基礎特論		1前		2		2	1		2				
環境保全学基礎特論		1前		2		2	1		1				
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	1							
小計(13科目)	-	0	26	0	37	44	3	15					
専攻共通科目	水産資源科学倫理特論	1前		1		8	10		4				
	水産資源科学特別研究Ⅰ	1前		3		8	10		4				
	水産資源科学特別研究Ⅱ	1後		4		8	10		4				
	水産資源科学特別研究Ⅲ	2通		2		8	10		4				
	小計(4科目)	-	10	0	0	8	10	0	4	0			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(必修科目)	食料生産における技術イノベーションと地域創生	1前	2			7						
	環境変動に対応した防災と持続的一次産業	1前	2			6						
	小計(2科目)	-	4	0	0	13	0	0	0	0		
実験科目	沿岸域乗船実習	1・2通		1		8	7		4			
	小計(1科目)	-	0	1	0	8	7	0	4	0		
キャリア実践科目	インターンシップA	1・2通		1		2						
	インターンシップB	1・2通		2		2						
	ビジネスツール実践演習	1後		2								2
	実用英語S	1後		2								1
	水産業の課題と未来	1後		2		5	2		1			
	Tropical Fisheries	1前		2			1					
	地域創生・食産業マネジメントプログラム	1・2通		8		1	2		1			
	国際バイテク・リーダー育成	1・2通		2		3	5	1	1			
	食品安全特論	1・2通			2		2					
	食品産業監査特論	1・2通			1		2					1
	マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論	1・2通			1		1					3
	食品加工論	1・2通			1	2	3					
	食品衛生論	1・2通			1				1			
	食品環境測定論	1・2通			1				2			
	食品産業国際規格論	1・2通			1		1					
	食品産業実習	1・2通			1				1			
	商品開発特論	隔年・前			2		1					
小計(17科目)	-	0	21	11	15	11	2	3	0	7		
コース基礎科目	植物生産科学基礎特論	1前		2		6	7	1	1			
	畜産科学基礎特論	1前		2		4	5		1			
	森林科学基礎特論	1前		2		5	5		2			
	食料農業経済学基礎特論	1前		2		1						
	食品科学基礎特論	1前		2		2	6		1			
	先端生命科学基礎特論	1前		2		1	5	2				
	微生物科学基礎特論	1前		2		3	3		2			
	生物環境科学基礎特論	1前		2		1	2		1			
	環境システム学基礎特論	1前		2		2	3		4			
	生物資源科学基礎特論	1前		2		3	5					
	増養殖学基礎特論	1前		2		3	1		1			
	環境保全学基礎特論	1前		2		3			2			
水産流通・政策学基礎特論	1前		2		2	2						
小計(13科目)	-	0	26	0	35	44	3	15				
専攻共通科目	水産資源科学倫理特論	1前		1		11	8		3			
	水産資源科学特別研究Ⅰ	1前		3		11	8		3			
	水産資源科学特別研究Ⅱ	1後		4		11	8		3			
	水産資源科学特別研究Ⅲ	2前		2		11	8		3			
	小計(4科目)	-	10	0	0	11	8	0	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生物資源科学コース	生物資源科学特別講義	1前	2			2	5					
	小計(1科目)	-	2	0	0	2	5	0	0	0		
	資源・計測乗船実習	1後		1			2					
	小計(1科目)	-	0	1	0	0	2	0	0	0		
	論文指導	-				2	5					
小計	-				2	5	0	0	0			
増養殖学コース	増養殖学特別講義	1前	2			2	1		2			
	増養殖学特別実習	1前	2			2	1		2			
	小計(2科目)	-	4	0	0	2	1	0	2	0		
	論文指導	-				2	1		2			
	小計	-				2	1	0	2	0		
環境保全学コース	環境保全学特別講義	1前	2			2	1		2			
	小計(1科目)	-	2	0	0	2	1	0	2	0		
	論文指導	-				2	1		2			
	小計	-				2	1	0	2	0		
	水産流通・政策学特別講義	1前	2			2	3					
小計(1科目)	-	2	0	0	2	3	0	0	0			
論文指導	-				2	3						
小計	-				2	3	0	0	0			
留学生プログラム	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2				1					
	Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1						
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後		2			1					
	Advanced Plant Production Science	1前		2			7	8				
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1通		2			8	10		4		
	農林水産科学リーディングコースⅡ	2通		2			8	10		4		
	小計(6科目)	-	4	8	0	16	19	0	4	0		
計(39科目)		28	55	0	37	46	3	16	0	3		

修了要件及び履修方法

生物資源科学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の中から所属するコースが開講する科目「生物資源科学基礎特論」2単位を必修とし、所属する以外のコースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目「生物資源科学特別講義」2単位を必修として履修。
・その他、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他コース・他専攻、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

増養殖学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目の4単位は必修として履修。
・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自専攻、他コースのその他科目、他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から6単位を選択必修として履修。

環境保全学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の中から所属するコースが開講する科目「環境保全学基礎特論」2単位を必修とし、所属する以外のコースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目「環境保全学特別講義」2単位を必修として履修。
・その他、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他専攻、他コース、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生物資源科学コース	生物資源科学特別講義	1前	2			3	5					
	小計(1科目)	-	2	0	0	3	5	0	0	0		
	資源・計測乗船実習	1後		1			2					
	小計(1科目)	-	0	1	0	0	2	0	0	0		
	論文指導	-				3	5					
小計	-				3	5	0	0	0			
増養殖学コース	増養殖学特別講義	1前	2			3	1		1			
	増養殖学特別実習	1後	2			3	1		1			
	小計(2科目)	-	4	0	0	3	1	0	1	0		
	論文指導	-				3	1		1			
	小計	-				3	1	0	1	0		
環境保全学コース	環境保全学特別講義	1前	2			3			2			
	小計(1科目)	-	2	0	0	3	0	0	2	0		
	論文指導	-				3			2			
	小計	-				3	0	0	2	0		
	水産流通・政策学特別講義	1前	2			2	2					
小計(1科目)	-	2	0	0	2	2	0	0	0			
論文指導	-				2	2						
小計	-				2	2	0	0	0			
留学生プログラム	Technology, Sustainable Food and Agriculture: The Synergy	1後	2				1					
	Fisheries & Fisheries Sciences	1前	2			1						
	Functional Foods: Principles and Biofunctions	1後		2			1					
	Advanced Plant Production Science	1前		2			7	8				
	農林水産科学リーディングコースⅠ	1前		2			8	10		4		
	農林水産科学リーディングコースⅡ	1後		2			8	10		4		
	留学生日本語	1・2通		2		1						
小計(7科目)	-	4	10	0	16	19	0	4	0			
計(50科目)		28	57	13	37	46	3	16	0	7		

修了要件及び履修方法

生物資源科学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の中から所属するコースが開講する科目「生物資源科学基礎特論」2単位を必修とし、所属する以外のコースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目「生物資源科学特別講義」2単位を必修として履修。
・その他、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他コース・他専攻、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

増養殖学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の自コース開講科目2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目の4単位は必修として履修。
・その他の科目は、研究科共通(キャリア実践科目)、自専攻、他コースのその他科目、他研究科・専攻・コースの科目(開放されている科目)の中から6単位を選択必修として履修。

環境保全学コース
・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的・一次産業」(2単位)の計4単位を必修として履修。
・コース基礎科目の中から所属するコースが開講する科目「環境保全学基礎特論」2単位を必修とし、所属する以外のコースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
・専攻共通科目「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
・コース独自科目「環境保全学特別講義」2単位を必修として履修。
・その他、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他専攻、他コース、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

流通・政策学コース

- ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
- ・コース基礎科目の中から自コース「水産流通・政策学基礎特論」2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
- ・専攻共通科目(「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
- ・自コース独自科目「流通・政策学特別講義」2単位を必修として履修。
- ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他専攻、他コース、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

留学生プログラム

留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。

流通・政策学コース

- ・研究科共通科目の「食料生産における技術イノベーションと地域創生」(2単位)と「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」(2単位)の計4単位は必修として履修。
- ・コース基礎科目の中から自コース「水産流通・政策学基礎特論」2単位を必修とし、他コースのコース基礎科目の中から4単位を選択必修として履修。
- ・専攻共通科目(「水産資源科学倫理特論」(1単位)、「水産資源科学特別研究Ⅰ」(3単位)、「水産資源科学特別研究Ⅱ」(4単位)、「水産資源科学特別研究Ⅲ」(2単位))10単位を必修として履修。
- ・自コース独自科目「流通・政策学特別講義」2単位を必修として履修。
- ・その他は、研究科共通(キャリア実践科目)、実験実習科目(研究科共通、他コース開講分含む)、他専攻、他コース、他研究科の開講科目の中から8単位を選択必修として履修。

留学生プログラム

留学生プログラムは、海外からの留学生を対象に、本研究科課程修了に必要なすべての学修を英語で行うことができるように設けたものである。研究科共通必修科目に対応する英語科目を必修として受講させるなど、いくつかの特別措置を設け、学修の便を図るものである。留学生でも、本プログラムに登録しない場合は、本研究科の基本カリキュラムのみに従って日本語を主な使用言語とした教育を受けることになる。

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

昇任人事の理由により、「食料生産における技術イノベーションと地域創生」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授7」に変更。
 昇任人事の理由により、「環境変動に対応した防災と持続的一次産業」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授6」に変更。
 昇任人事の理由により、「沿岸域乗船実習」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「ビジネスツール実践演習」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「実用英語S」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 昇任人事の理由により、「水産業の課題と未来」の専任教員の配置を「准教授4」から「教授5」に変更。
 教育効果の観点(発展的科目は後期へ移動)により、「水産業の課題と未来」の配当年次を「1・2通」から「1後」に変更。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「国際バイオテック・リーダー育成」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「食品安全特論」「食品産業監査特論」「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」「食品加工論」「食品衛生論」「食品環境測定論」「食品産業国際規格論」「食品産業実習」の科目区分を食品創成科学専攻の食品コース独自科目から研究科共通科目のキャリア実践科目に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/16以降)の理由により、「食品安全特論」の専任教員の配置を「准教授1」「兼任・兼担2」から「准教授2」「兼任・兼担0」に変更。
 専任教員追加の理由により、「食品産業監査特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令の理由により、「マクドナルドサプライチェーン品質・安全特論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担5」から「准教授1」「兼任・兼担3」に変更。
 専任教員追加及び非常勤講師発令準備中(講義開始6/15以降)の理由により、「食品産業国際規格論」の専任教員の配置を「准教授0」「兼任・兼担3」から「准教授1」「兼任・兼担0」に変更。
 講義内容から研究科全体に受講対象を拡大するとの理由により、「商品開発特論」を研究科共通科目のキャリア実践科目に追加。
 担当者変更の理由により、「畜産科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
 新規採用の理由により、「森林科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
 昇任人事の理由により、「食品科学基礎特論」の専任教員の配置を「助教2」から「准教授6」に変更。
 担当者変更の理由により、「先端生命科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授3」「准教授6」から「教授1」「准教授5」に変更。
 焼酎以外の微生物に関することも教授するため、より適切な名称として「焼酎発酵・微生物科学基礎特論」から「微生物科学基礎特論」に変更。
 担当者変更の理由により、「微生物科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学基礎特論」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
 昇任人事及び担当者追加の理由により、「環境保全学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「教授3」「助教2」に変更。
 担当者追加の理由により、「水産流通・政策学基礎特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「水産資源科学倫理特論」の専任教員の配置を「准教授8」「准教授10」「助教4」から「教授11」「准教授8」「助教3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「水産資源科特別研究Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授8」「准教授10」「助教4」から「教授11」「准教授8」「助教3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「水産資源科特別研究Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授8」「准教授10」「助教4」から「教授11」「准教授8」「助教3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「水産資源科特別研究Ⅲ」の専任教員の配置を「准教授8」「准教授10」「助教4」から「教授11」「准教授8」「助教3」に変更。
 教育効果の観点により、「水産資源科学特別研究Ⅲ」の配当年次を「2通」から「2前」に変更。
 昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学特別講義」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用の理由により、「生物資源科学コース論文指導」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学特別講義」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学特別実習」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
 養殖種の生産スケジュールに合わせた実地視察を行うとの理由から、「増養殖学特別実習」の配当年次を「1前」から「1・2通」に変更。
 昇任人事及び新規採用、転出の理由により、「増養殖学コース論文指導」の専任教員の配置を「教授2」「助教2」から「教授3」「助教1」に変更。
 昇任人事の理由により、「環境保全学特別講義」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授3」に変更。
 昇任人事の理由により、「環境保全学コース論文指導」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授3」に変更。
 転出の理由により、「水産流通・政策学特別講義」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
 転出の理由により、「流通・政策学コース論文指導」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。
 教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅠ」の配当年次を「1通」から「1前」に変更。
 教育効果の観点(文献講読科目であり1年次履修が望ましい)により、「農林水産科学リーディングコースⅡ」の配当年次を「2通」から「1後」に変更。
 開講の必要性の認識及びグローバルセンターの協力が得られることになり、「留学生日本語」を追加。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	26 科目	0 科目	39 科目	13 科目 [0]	28 科目 [2]	9 科目 [9]	50 科目 [11]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{39} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校舎敷地	525,967 510,722 m ²	0 m ²	0 m ²	525,967 510,722 m ²					
	運動場用地	106,929 m ²	0 m ²	0 m ²	106,929 m ²					
	小 計	632,896 617,651 m ²	0 m ²	0 m ²	632,896 617,651 m ²					
	そ の 他	35,960,681 35,976,028 m ²	0 m ²	0 m ²	35,960,681 35,976,028 m ²					
	合 計	36,593,577 36,593,679 m ²	0 m ²	0 m ²	36,593,577 36,593,679 m ²					
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		208,888 m ² (208,888 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	208,888 m ² (208,888 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	145 室	287 室	1,662 室	29 室 (補助職員 0 人)	5 室 (補助職員 0 人)					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	農林水産学研究科 水産資源科学専攻			31 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本			
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル						
		冊	種	〔うち外国書〕				点	点	点
		共同獣医学研究科 獣医学専攻	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041] 42,674 [17,201]	6,242 [5,926] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]				8,439 8,563 8,432	1,725	1,354,970
		計	36,422 [11,782] 1,267,106 [367,041] 42,674 [17,201]	6,242 [5,926] 5,509 [5,506] 6,927 [5,586]				8,439 8,563 8,432	(1,725)	(1,354,970)
						教育研究の充実及び購入計画の見直し等による変更(元)				
(6) 図 書 館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		集計方法の見直し等による変更(元)				
	15,479 15,472 m ²	1,142 1,203 席		1,205,000 1,227,500 1,227,583 冊						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	4,658 m ²	陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、武道場、室内プール、艇庫、弓道場								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円		
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円			
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鹿児島大学									備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
法文学部										
法経社会学科	4	245	-	735	学士 (法学・経済学・学術)	1.03	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
人文学科	4	165	-	495	学士 (文学)	1.02	-	平成29年度	同上	
法政策学科	4	-	-	-	学士 (法学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
経済情報学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
人文学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	-	昭和54年度	同上	平成29年度学生募集停止
			3年次 10	20						編入学定員は学部全体の定員で外数。改組前の編入学定員は、平成31年度より学生募集停止。
教育学部										
学校教育教員養成課程	4	200	-	825	学士 (教育学)	1.02	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(25人)
特別支援教育教員養成課程	4	15	-	60	学士 (教育学)	1.01	-	昭和49年度	同上	
生涯教育総合課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	-	平成9年度	同上	平成29年度学生募集停止
理学部										
数情報科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	鹿児島市郡元一丁目21番35号	
物理科学科	4	45	-	180	学士 (理学)	1.03	-	平成9年度	同上	
生命化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	-	平成9年度	同上	
地球環境科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.04	-	平成9年度	同上	
医学部										
医学科	6	107	2年次 10	692	学士 (医学)	1.00	平成30年度	昭和30年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	(編入学定員は内数)
保健学科										
看護学専攻	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	-	平成11年度	同上	(編入学定員は内数)
理学療法学専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上
作業療法学専攻	4	20	3年次 5	90	学士 (保健学)	1.00	-	平成11年度	同上	同上

歯学部						1.00				
歯学科	6	53	-	318	学士 (歯学)	1.00		昭和52年度	鹿児島市桜ヶ丘 八丁目35番1号	
工学部						1.04				
機械工学科	4	94	-	376	学士 (工学)	1.02	-	昭和30年度	鹿児島市郡元一 丁目21番40号	
電気電子工学科	4	78	-	312	学士 (工学)	1.05	-	平成4年度	同上	
建築学科	4	55	-	220	学士 (工学)	1.05	-	昭和30年度	同上	
環境化学プロセス工学科	4	35	-	140	学士 (工学)	1.03	-	平成21年度	同上	
海洋土木工学科	4	48	-	192	学士 (工学)	1.03	-	平成4年度	同上	
情報生体システム工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.05	-	平成21年度	同上	
化学生命工学科	4	50	-	200	学士 (工学)	1.04	-	平成21年度	同上	
			3年次 20	40						編入学定員は学部全 体の定員で外数。
農学部						1.03				
農業生産科学科	4	75	-	300	学士 (農学)	1.08	-	平成28年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号	
食料生命科学科	4	70	-	280	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上	
農林環境科学科	4	60	-	240	学士 (農学)	1.01	-	平成28年度	同上	
生物生産学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
生物資源化学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
生物環境学科	4	-	-	-	学士 (農学)	-	-	平成2年度	同上	平成28年度学生 募集停止
水産学部						1.04				
水産学科	4	140	-	560	学士 (水産学)	1.04	-	昭和50年度	鹿児島市下荒田 四丁目50番20号	平成27年度入学 定員増(10人)
水産教員養成課程	4	-	-	-	学士 (水産学)	-	-	昭和29年度	同上	平成27年度学生 募集停止
共同獣医学部						1.05				
獣医学科	6	30	-	180	学士 (獣医学)	1.05	-	平成24年度	鹿児島市郡元一 丁目21番24号	
大学全体	-	1905	60	7765	-	1.02	-	-	-	

大学の名称	鹿児島大学大学院								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
<<AC対象学部等>> [修士(博士前期)] 農林水産学研究科						0.95				
農林資源科学専攻	2	39	-	39	修士 (農学)	1.00	-	令和元年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号・ 鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
食品創成科学専攻	2	26	-	26	修士 (農学・水産学)	1.11	-	令和元年度	同上	
環境フィールド科学専攻	2	16	-	16	修士 (農学・水産学)	0.81	-	令和元年度	同上	
水産資源科学専攻	2	20	-	20	修士 (水産学)	0.75	-	令和元年度	同上	
人文社会科学研究科						0.83				
法学専攻	2	5	-	10	修士 (法学)	1.50	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
経済社会システム専攻	2	10	-	20	修士 (経済学・社会学)	0.65	-	平成10年度	同上	
人間環境文化論専攻	2	5	-	10	修士 (文学)	1.00	-	平成10年度	同上	
国際総合文化論専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.56	-	平成10年度	同上	
教育学研究科						0.88				
教育実践総合専攻	2	22	-	44	修士 (教育学)	0.88	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号	平成29年度入学定員減(16人)
医歯学総合研究科						1.35				
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	1.35	-	平成16年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
保健学研究科						1.08				
保健学専攻	2	22	-	44	修士 (保健学・看護学)	1.08	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科						1.01				
機械工学専攻	2	50	-	100	修士 (理学・工学・学術)	0.96	-	平成10年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
電気電子工学専攻	2	45	-	90	修士 (理学・工学・学術)	1.19	-	平成21年度	同上	
建築学専攻	2	25	-	50	修士 (理学・工学・学術)	1.08	-	平成21年度	同上	
化学生命・化学工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.06	-	平成21年度	同上	

海洋土木工学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	0.61	-	平成21年度	同上	
情報生体システム工学専攻	2	42	-	84	修士 (理学・工学・学術)	1.02	-	平成21年度	同上	
数理情報科学専攻	2	14	-	28	修士 (理学・工学・学術)	0.78	-	平成21年度	同上	
物理・宇宙専攻	2	15	-	30	修士 (理学・工学・学術)	1.09	-	平成21年度	同上	
生命化学専攻	2	18	-	36	修士 (理学・工学・学術)	1.30	-	平成21年度	同上	
地球環境科学専攻	2	17	-	34	修士 (理学・工学・学術)	0.43	-	平成21年度	同上	
農学研究科										
生物生産学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号	令和元年度学生募集停止
生物資源化学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
生物環境学専攻	2	-	-	-	修士 (農学)	-	-	平成6年度	同上	令和元年度学生募集停止
水産学研究科										
水産学専攻	2	-	-	-	修士 (水産学)	-	-	昭和54年度	鹿児島市下荒田四丁目50番20号	令和元年度学生募集停止
[博士後期]										
人文社会科学研究科										
地域政策科学専攻	3	6	-	18	博士 (学術)	0.83	-	平成15年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号	
医歯学総合研究科										
健康科学専攻	4	19	-	76	博士 (医学・歯学・学術)	0.87	-	平成15年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
先進治療科学専攻	4	31	-	124	博士 (医学・歯学・学術)	1.32	-	平成15年度	同上	
保健学研究科										
保健学専攻	3	6	-	18	博士 (保健学)	1.00	-	平成17年度	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
理工学研究科										
総合理工学専攻	3	24	-	72	博士 (理学・工学・学術)	0.49	-	平成28年度	鹿児島市郡元一丁目21番40号	
物質生産科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
システム情報科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
生命環境科学専攻	3	-	-	-	博士 (理学・工学・学術)	-	-	平成21年度	同上	平成28年度学生募集停止
共同獣医学研究科										
						1.49				

獣医学専攻	4	6	-	12	博士 (獣医学)	1.49	-	平成30年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
連合農学研究科						1.25			
生物生産科学専攻	3	7	-	21	博士 (農学・水産学・学術)	1.42	-	平成21年度	鹿児島市郡元一丁目21番24号
応用生命科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.24	-	平成21年度	同上
農水圏資源環境科学専攻	3	8	-	24	博士 (農学・水産学・学術)	1.12	-	平成21年度	同上
〔専門職学位課程〕									
教育学研究科						0.90			
学校教育実践高度化専攻	2	16	-	32	教職修士 (専門職)	0.90	-	平成29年度	鹿児島市郡元一丁目20番6号
臨床心理学研究科						1.00			
臨床心理学専攻	2	15	-	30	臨床心理 修士 (専門職)	1.00	-	平成19年度	鹿児島市郡元一丁目21番30号
大学院全体	-	615	-	1288	-	0.99	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<農林水産学研究科 水産資源科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大富 浩 (55) <平成31年4月> 農学博士	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 インターンシップA インターンシップB 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	バ'ス'ク'ア'ー'チ'ダ'レ' ミ'ゲ'ル' フ'ェ'リ'ク'ス VAZQUEZ ARCHDALE Miguel Federico (56) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 Fisheries & Fisheries Sciences 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	石川 学 (51) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	山本 淳 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 水産業の課題と未来 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	前田 広人 (64)(高) <平成31年4月> 農学博士	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	吉川 毅 (52) <平成31年4月> 博士(農学)	環境変動に対応した防災と持続的 once 産業 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	佐久間 美明 (56) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論 ※ 水産流通・政策学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大富 浩 (55) <平成31年4月> 農学博士	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	バ'ス'ク'ア'ー'チ'ダ'レ' ミ'ゲ'ル' フ'ェ'リ'ク'ス VAZQUEZ ARCHDALE Miguel Federico (56) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 Fisheries & Fisheries Sciences 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ 留学生日本語
専	教授	石川 学 (51) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	山本 淳 (63) <平成31年4月> 博士(農学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 水産業の課題と未来 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	前田 広人 (64)(高) <平成31年4月> 農学博士	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	吉川 毅 (52) <平成31年4月> 博士(農学)	環境変動に対応した防災と持続的 once 産業 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授(副研究員)	佐久間 美明 (56) <平成31年4月> 博士(水産学)	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論 ※ 水産流通・政策学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐野 雅昭 (56) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論※ 水産業の課題と未来 ※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	安樂 和彦 (50) <平成31年4月> 博士(水産学) 環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 水産業の課題と未来 ※ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	石崎 宗周 (53) <平成31年4月> 博士(水産科学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 Tropical Fisheries 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	江幡 恵吾 (46) <平成31年4月> 博士(水産科学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 水産業の課題と未来 ※ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	西 隆昭 (61) <平成31年4月> 博士(農学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 資源・計測乗船実習 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	山中 有一 (61) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 資源・計測乗船実習 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	小谷 知也 (49) <平成31年4月> 博士(学術) 食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	宇野 誠一 (50) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 環境保全学基礎特論 ※ 水産業の課題と未来 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (専攻長)	佐野 雅昭 (56) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論※ 水産業の課題と未来 ※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	安樂 和彦 (50) <平成31年4月> 博士(水産学) 環境変動に対応した防災と持続的 一次産業 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 水産業の課題と未来 ※ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	石崎 宗周 (53) <平成31年4月> 博士(水産科学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 Tropical Fisheries 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	江幡 恵吾 (46) <平成31年4月> 博士(水産科学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 水産業の課題と未来 ※ 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	西 隆昭 (61) <平成31年4月> 博士(農学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 資源・計測乗船実習 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	山中 有一 (61) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 資源・計測乗船実習 生物資源科学基礎特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	小谷 知也 (49) <平成31年4月> 博士(学術) 食料生産における技術イノベーションと地域創生 ※ 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	教授	宇野 誠一 (50) <平成31年4月> 博士(水産学) 水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 環境保全学基礎特論 ※ 水産業の課題と未来 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	久賀 みず保 (41) <平成31年4月> 博士(学術)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産業の課題と未来 ※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	佐々木 貴文 (40) <平成31年4月> 博士(教育学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	島居 享司 (45) <平成31年4月> 博士(学術)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	竹内 裕 (44) <平成31年4月> 博士(水産学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	横山 佐一郎 (44) <平成31年4月> 博士(水産学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 水産業の課題と未来 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	國師 恵美子 (35) <平成31年4月> 博士(農学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	奥西 将之 (46) <平成31年4月> 博士(水産学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
		田角 隆志 (45) <平成31年4月> 博士(教育学)
専	准教授	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	久賀 みず保 (41) <平成31年4月> 博士(学術)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産業の課題と未来 ※ 水産流通・政策学基礎特論 ※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	島居 享司 (45) <平成31年4月> 博士(学術)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 水産流通・政策学基礎特論※ 水産流通・政策学特別講義※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	横山 佐一郎 (44) <平成31年4月> 博士(水産学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 水産業の課題と未来 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	國師 恵美子 (35) <平成31年4月> 博士(農学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	助教	奥西 将之 (46) <平成31年4月> 博士(水産学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 沿岸域乗船実習 環境保全学基礎特論 ※ 環境保全学特別講義 ※ 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ
専	准教授	田角 隆志 (45) <平成31年4月> 博士(教育学)
		水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 増養殖学基礎特論 ※ 増養殖学特別講義 増養殖学特別実習 農林水産科学リーディングコースⅠ 農林水産科学リーディングコースⅡ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		土井 薫 (39) <平成31年4月> 博士(水産学)
	専 任 准 教 授	水産資源科学倫理特論 水産資源科学特別研究Ⅰ 水産資源科学特別研究Ⅱ 水産資源科学特別研究Ⅲ 生物資源科学高度特論 ※ 生物資源科学特別講義 農林水産科学リーディング コースⅠ 農林水産科学リーディング コースⅡ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・平成30年6月 田角准教授 就任。
- ・平成30年9月 土井准教授 就任。
- ・平成30年10月 安樂准教授、宇野准教授、小谷准教授の3名が教授へ昇任。竹内助教が准教授へ昇任。
- ・平成30年12月 佐々木准教授 辞職。
- ・平成31年2月 竹内助教 辞職。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	2
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
8	10	0	4	22	11	8	0	3	22
(11)	(8)	(0)	(3)	(22)					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
20	2	0			20	2	0		
(20)	(2)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	8	0	3	21	10	8	0	3	21
[2]	[Δ2]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[2]	[Δ2]	[0]	[Δ1]	[Δ1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
19	2	0			19	2	0		
[Δ1]	[0]	[0]			[Δ1]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{22} = \boxed{95.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	佐々木 貴文	H30.12	必修	水産資源科学倫理特論	①	H30.12月 北海道大学へ転出のため就任辞退（元）			
				必修	水産資源科学特別研究I	①				
				必修	水産資源科学特別研究II	①				
				必修	水産資源科学特別研究III	①				
				必修	水産流通・政策学特別講義	①				
				選択	農林水産科学リーディングコースI	①				
2	助教	竹内 裕	H31.2	必修	水産資源科学倫理特論	①	H31.2月 金沢大学へ転出のため就任辞退（元）			
				必修	水産資源科学特別研究I	①				
				必修	水産資源科学特別研究II	①				
				必修	水産資源科学特別研究III	①				
				選択	増養殖学基礎特論	①				
				必修	増養殖学特別講義	①				
				必修	増養殖学特別実習	①				
				選択	農林水産科学リーディングコースI	①				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{22} = 9.09 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」
 平成30年12月と平成31年2月に専任教員の転出があったが、担当予定科目はいずれもオムニバスか、主指導教員担当科目であったため、同じ専攻の他専任教員により行う。同じ専門分野・コースの教員は複数おり、学生への教育・研究指導の面では特段影響はない。

「学生への周知方法」
 入学後の各種資料には、該当科目の担当として、転出者は当初より掲載していない。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<農林水産学研究科 水産資源科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

鹿児島大学では、鹿児島大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が、新任教員FD研修会の開催、学生・教職員ワークショップの開催、FD・SD合同フォーラムの開催、鹿児島大学版FDガイドの発行、大学IRコンソーシアム学生調査の実施、鹿児島大学FD報告書の発行等を行っている。農林水産学研究科でもファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。全学委員会と協力して、独自のFD活動に取り組む予定である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未開催。

c 委員会の審議事項等

鹿児島大学大学院農林水産学研究科常設委員会規則により、ファカルティ・ディベロップメント委員会の審議事項は、教育内容・方法及び改善に関する事項、教員の資質向上に関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメント委員会が必要と認める事項、と定められている。

② 実施状況

a 実施内容

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

b 実施方法

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年5月1日現在、未実施。具体的取り組みについて、今後検討予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

未実施のため、該当なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時に教育支援システムmanabaにより実施する。アンケート項目等を今後検討予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

鹿児島大学FD報告書に掲載し、ホームページで公開する。研究科内での公開方法等は今後検討予定。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成31年4月1日付け設置のため、本調査の報告時点（令和元年5月1日）では総括評価を行っていないが、引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を計画通り進めていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和3年度から評価機関（大学評価・学位授与機構）の認証評価を受ける都度、作成予定。

b 公表方法

作成後直ちに大学ホームページ上に公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 9月 1日)

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。